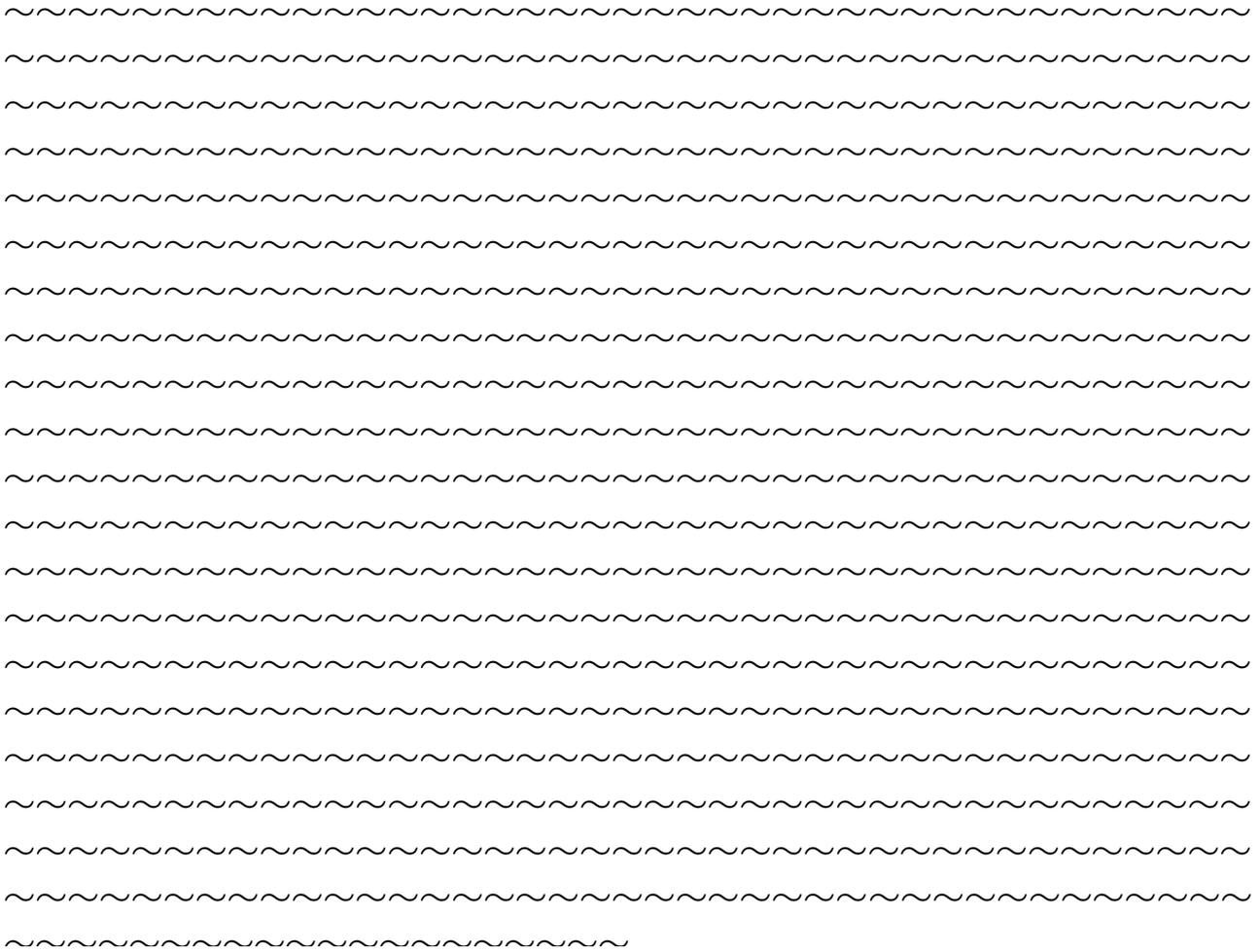
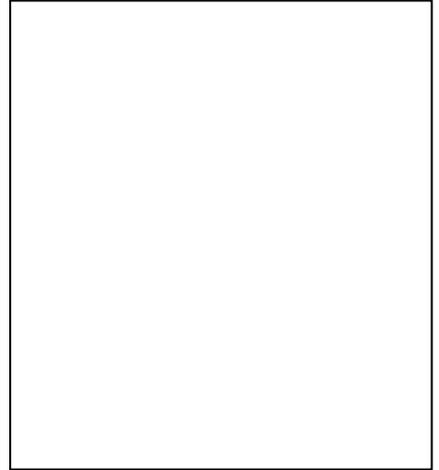


都心まちづくり計画案 (未定稿)

平成 28 年 3 月

札幌市



都心まちづくり計画策定協議会 座長

小林 英嗣

〈都心まちづくり計画 計画書 目次〉

| | |
|--|-----|
| 序 都心まちづくり計画策定の背景と計画の位置づけ | |
| 1 都心まちづくり計画策定の背景 | 1 |
| 2 都心まちづくり計画の位置づけ | 2 |
| 3 都心まちづくり計画の構成 | 4 |
| I 都心まちづくりの目標 | |
| 1 都心まちづくりを取り巻く現状と課題 | 5 |
| 2 まちづくりにおいて重視すべき都心の優位性と役割 | 6 |
| 3 都心まちづくり計画の目標 | 9 |
| 4 まちづくりを通じて目指すべき都心の姿 | 11 |
| II 都心の構造 | |
| 1 これまでの都心まちづくりを支えてきた都心の構造 | 13 |
| 2 次の時代の都心まちづくりを支える骨格構造 | 14 |
| 3 都心まちづくりの新たなターゲットエリア | 17 |
| III 都心まちづくりの戦略 | |
| 1 都心まちづくりの戦略の考え方 | 21 |
| 2 【戦略1】世界が注目する魅力と活力を備えたビジネス・都市観光機能の強化 | 23 |
| 3 【戦略2】北海道らしい豊かなみどりや地球にやさしい環境と共生する持続可能なまちの実現 | 25 |
| 4 【戦略3】札幌での生きがいと魅力的なライフスタイルを生む都市空間の形成 | 27 |
| 5 【戦略4】札幌の持続的・発展的成長をけん引する都心マネジメントの展開 | 29 |
| IV 持続的な取り組みを通じた都心の空間形成指針 | |
| 1 都心の空間の持続的成長・強化のための取組 | 31 |
| 2 骨格軸形成・強化の指針 | 32 |
| 3 交流拠点形成・強化の指針 | 37 |
| 4 エリア特性に応じたまちづくりを進めるための指針 | 39 |
| 5 都心全域を視野に入れた空間形成指針 | 51 |
| V 都心まちづくりの着実な展開に向けて | |
| 1 まちづくりの実効性を高めるうえでの取組 | 54 |
| 参考資料 | |
| 【資料1】 第2次札幌市都市計画マスタープランに定める都心のゾーニング | 資_1 |
| 【資料2】 都心まちづくりの経緯 | 資_2 |
| 【資料3】 策定の仕組み | 資_3 |
| 都心まちづくり計画 展開プログラム編 | |

1 都心まちづくり計画策定の背景

札幌都心のまちづくりは、平成14年度に策定した「都心まちづくり計画」と都心まちづくり計画の後半10年間を補完するため平成22年度に策定した「札幌都心まちづくり戦略」に基づき、世界に向け魅力を発信し、市民生活を豊かにする都心の創出を目標に進めてきました。

これまでの取組によって、札幌駅前通地下歩行空間(チカホ)や創成川公園の整備、北3条広場(アカプラ)や大通交流拠点地下広場といった都心の象徴的な空間の創出、札幌大通まちづくり(株)と札幌駅前通まちづくり(株)の設立など、新たな都心の魅力発信によるにぎわいの創出などを図ってきました。

一方で、超高齢社会が到来し、生産年齢人口の減少に伴う経済規模の縮小が見込まれる中、東日本大震災を契機とした災害に強い都市づくりに対する社会的要請の増大、地球環境問題に対応した低炭素社会実現の必要性、札幌オリンピックの開催(昭和47年)を契機に建てられたビル等の更新時期が集中的に訪れるなど、札幌市並びに都心を取り巻く社会情勢は大きく変化しています。

これら社会情勢の変化に対応するため、札幌市まちづくりの総合計画である「札幌市まちづくり戦略ビジョン(平成25年)」の策定や、都市計画の基本方針である「札幌市都市計画マスタープラン」の見直し等、都心まちづくりの上位計画が、その考え方を大きく変えています。

また、都心は高次な都市機能の集積や魅力ある都市空間の創出など、札幌の顔にふさわしいまちづくりを重点的に進めていくことで、経済の成長や雇用の創出に寄与するとともに、市民生活の質の向上を支え、札幌を世界にアピールすることが求められております。

札幌市は現在オリンピック・パラリンピック招致を目指した活動を行っております。

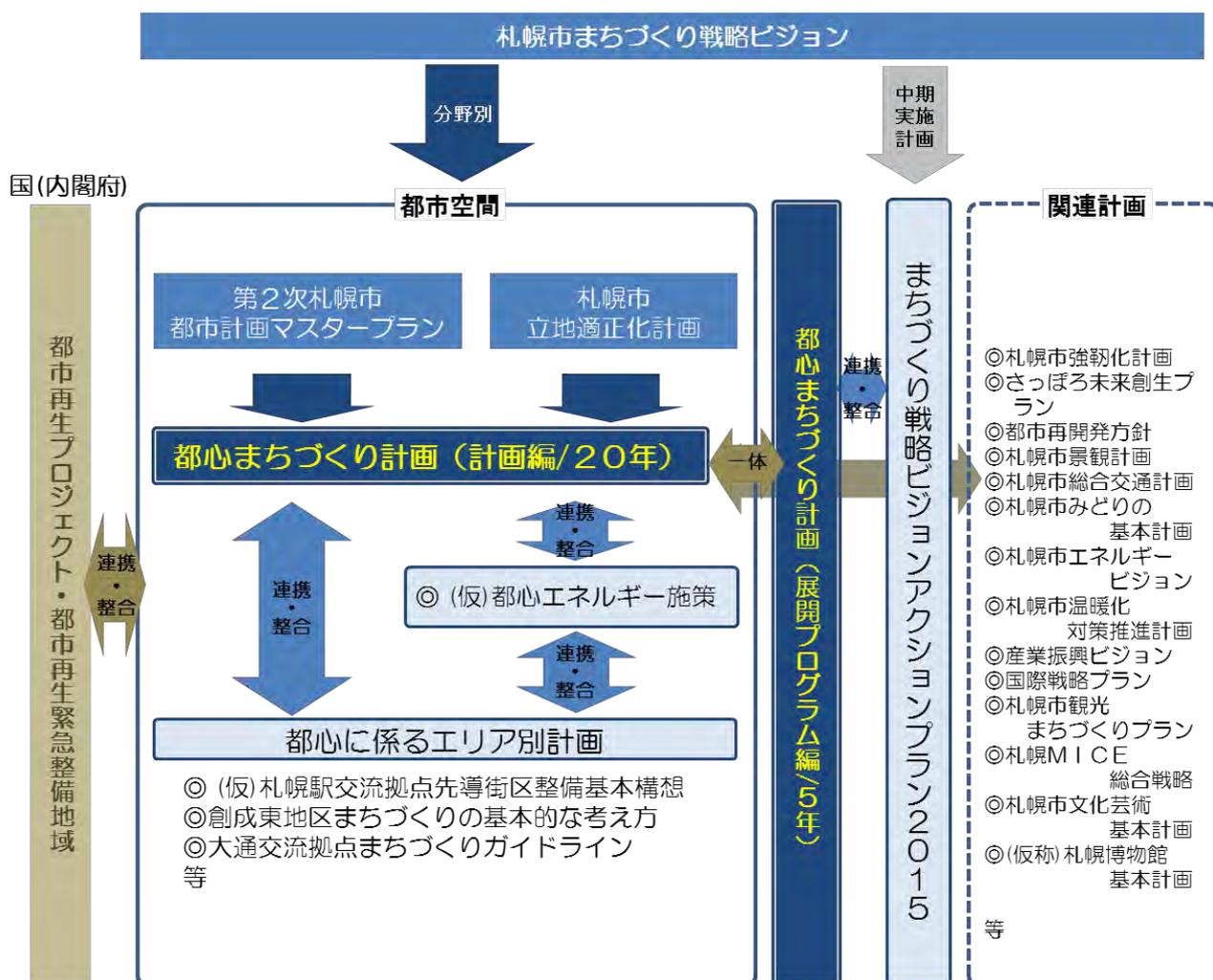
都心においても、札幌を象徴する景観の実現、アクセスの強化、回遊性の向上、バリアフリーの実現など、オリンピック・パラリンピックを開催する都市としてふさわしいまちづくりを進めなければなりません。

以上のことから、これから新たな20年間、都心まちづくりの指針とするため、「都心まちづくり計画」を見直すものであります。

2 都心まちづくり計画の位置づけ

(1) 札幌都心に係る計画の体系

「都心まちづくり計画」は、平成14年度策定の前「都心まちづくり計画」と平成16年度策定の「さっぽろ都心交通計画」、平成22年度策定の「さっぽろ都心まちづくり戦略」を総合的に見直した計画です。



【上位計画との関係】・・・「札幌市まちづくり戦略ビジョン」を最上位計画とし、「第2次札幌市都市計画マスタープラン」・「札幌市立地適正化計画」を都市空間に関わる上位計画として定めます。

【都市再生プロジェクト】・・・様々な都市課題について、国、地方公共団体、民間事業者一体となって解決する「国家プロジェクト」であり、札幌都心は、平成14年に「人と環境を重視した都心づくり」、平成16年に「地球温暖化対策・ヒートアイランド対策モデル地域」、平成17年度に「防犯対策とまちづくりの連携協働による都市の安全・安心の再構築」に指定されました

【都市再生緊急整備地域】・・・都市再生特別措置法により、「都市の再生の拠点として、都市開発事業等を通じて緊急かつ重点的に市街地の整備を推進すべき地域」として、現在、札幌都心地域が指定されています。

(2) 計画対象区域 ～札幌都心の定義～

本計画において取り扱う、札幌の「都心」は、以下の区域として定めます。

JR札幌駅北口の一帯、大通東と豊平川が接する付近、中島公園、大通公園の西側付近を頂点とする、ほぼひし形に広がる区域

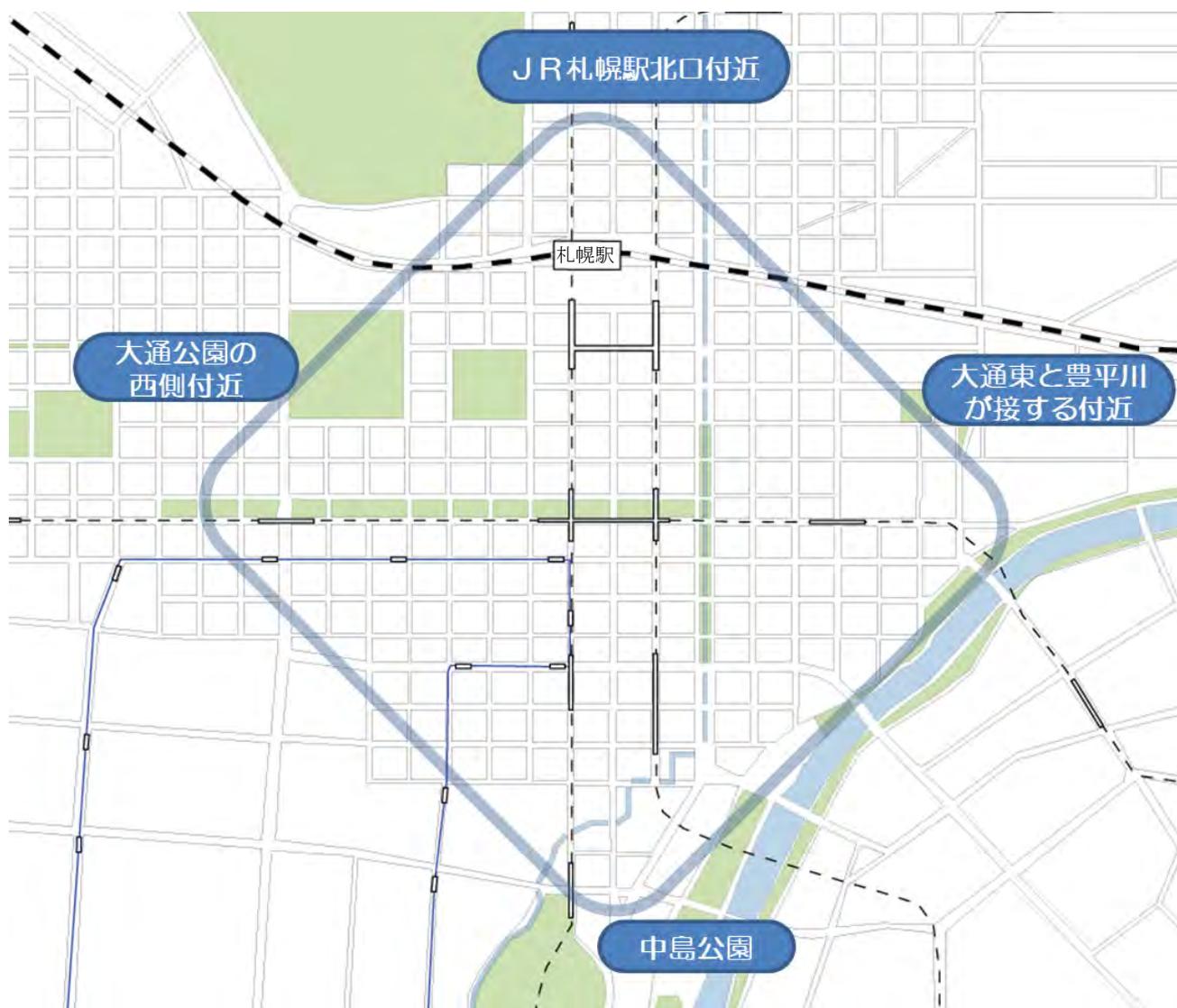


図 計画対象範囲

3 都心まちづくり計画の構成

本計画は、主として、以下の計画事項から構成するものとします。

I章 都心まちづくりの目標

- ・ これからの都心のまちづくりを展開するにあたって、関係主体が共有すべき目標
- ・ 都心のまちづくりを進める上で目指すべき将来像（目指すべき姿）

II章 都心の構造

- ・ 都心まちづくりの基軸となる骨格構造
- ・ まちづくりの重点的な取り組みを展開するターゲットエリア

III章 都心まちづくりの戦略

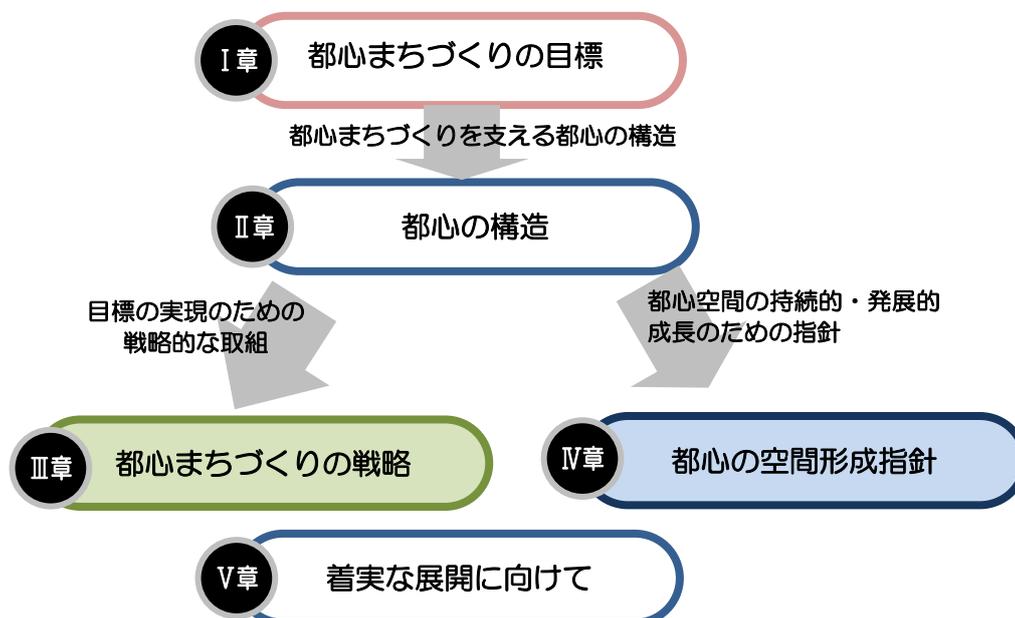
- ・ 目標実現のため、重要となるまちづくりの戦略
- ・ まちづくりの戦略に基づく取組の骨子

IV章 都心の空間形成指針

- ・ 骨格構造、ターゲットエリアの持続的な発展・成長に向けた空間形成の指針

V章 都心まちづくりの着実な展開に向けて

- ・ まちづくりの実効性を高めるうえでの取組



1 都心まちづくりを取り巻く現状と課題

札幌の都心まちづくりは、前都心まちづくり計画に基づき、駅前通、創成川通等の骨格軸と、札幌駅、大通、創世の3つの交流拠点からなる骨格構造と、道庁周辺地区等のターゲットエリアを中心に展開し、10年の取組を経て一定の成果と新たなまちづくりの機運が見えつつあります。

一方、この10年を通じて、札幌市並びに札幌都心を取り巻く社会経済情勢が大きく変化し、これに対応した上位計画の見直し等が進められるなど、都心まちづくりにおいても現状を踏まえ、新たな目標を見据えた計画づくりを進めることが急務となっています。

こうした中、現在の都心まちづくりを取り巻く現況と課題は以下の4つの観点から整理されます。

1 都市を取り巻く環境変化への対応

- 人口減少・超高齢社会の現実化
- 生産年齢人口の減少に伴う経済規模縮小の見込み
- 地球環境問題に対応した低炭素社会への移行の必要性
- 東日本大震災以降の災害に強い都市づくりに対する社会的要請
- 成熟社会を支える都市づくり

2 札幌市を取り巻く社会情勢の変化への対応

- 激しさを増す都市間競争への対応（札幌の強みを活かした都市戦略構築の必要性）
- 他都市に比肩する広域交通アクセス強化の必要性（新千歳空港等との結びつきの強化）
- 北海道新幹線の開業と平成42年度末予定の北海道新幹線札幌開業
- 冬季オリンピック・パラリンピック招致の動き

3 都心の新たな機運への対応

- 札幌冬季オリンピック（昭和47年）頃に建てられたビル等の建物の更新期の到来
- 都市再生を先導する都市開発、環境共生型まちづくりの顕在化
- 大通と駅前通の二つのまちづくり会社によるまちの活性化事業の展開
- 創成東地区のまちづくり機運の高まり

4 都心まちづくりを支える上位計画等との整合

- 札幌市まちづくり戦略ビジョン（平成25年度）
- 都市計画マスタープラン・立地適正化計画（平成27年度）

2 まちづくりにおいて重視すべき都心の優位性と役割

(1) 札幌・都心の有するポテンシャル

都市環境

～札幌市の立地特性、都市構造

北国固有の豊かな環境

- 北国の変化に富んだ四季が織りなす都市景観
- 大都市でありながら、身近に北海道らしい豊かな自然環境を備えた、都市と自然の共生する都市環境

他政令都市と比較して少ない自然災害

- 札幌は他の主要都市と比べて地震が少ない。(過去30年間、震度3以上の地震は約10回。震度5弱以上の地震は、1923年以降一度もない)
- 今後30年以内に震度6弱以上の地震が起こる確率は1%未満と言われ、関東・東海・中部地方などと比べてはるかに低い
- 全国的に見ても台風の接近回数が少ない
- 首都圏や関西圏から遠く、同時被災リスクが低い

コンパクトな都市構造

- 10km圏内に都市機能・人口が集積するコンパクトな市街地
- 地下鉄をはじめとする交通ネットワークが充実し、歩いて暮らせる市街地

都市活力

～北海道・札幌市の経済を支える機能・資源の集積

高次業務機能の集積

- 札幌の玄関口である札幌駅を起点とし、かつ駅前通を基軸とした業務機能、行政機能等の集積
- 道都さっぽろとして、人口、産業、文化、教育機能が集積

北海道観光の拠点

- 空港や鉄道との結節性を活かした、国内外とつながる中核機能の可能性
- ニセコをはじめとする北海道の豊かな資源・文化を体感できる観光・レジャーエリアの存在
- 北海道の魅力、豊かな農業資源を集約した食文化の充実

生活環境

～北国らしいライフスタイルを享受できるまち

北国・北海道を象徴するライフスタイル

- 世界唯一の積雪寒冷大都市（年間 600 cmの降雪がありながら 100 万人以上の人口を擁する都市は他に見られない）
- 大都市でありながら、身近に豊かな自然環境を有する、自然と共生したライフスタイルを享受できる

都市文化を育む人・空間

- 多様な文化を受け入れる寛容さと、既存の価値にとらわれず、常に新しいコトに挑戦する札幌人気質
- 多様な文化機能、人々の豊かな時間の過ごし方を支える広場や地下空間等の公共空間の整備により、市民活動の受け皿となる機能・空間が充実

まちづくり

～これまでの都心まちづくりの進展と成果

都心まちづくりの進展

- 駅前通、創成川通の二つの骨格軸の整備と札幌駅・大通・創世の3つの交流拠点における都市開発の進展による骨格構造の概成
- 道庁東地区等、都市再生プロジェクトの具現化
- 大通まちづくり㈱、札幌駅前通まちづくり㈱の設立によるエリアマネジメントの進展

多様なネットワークの形成

- 駅前通地下歩行空間（チカホ）の整備による、四季を問わない快適な回遊・交流環境の強化
- 都市再開発等と連動した自立分散型電源の設置とエネルギーネットワークの形成

都市的なインパクトを発揮する新たな機運の顕在化

- 平成42年度末予定の北海道新幹線札幌開業に向けた取組
- 冬季オリンピック・パラリンピックの開催に向けた招致活動

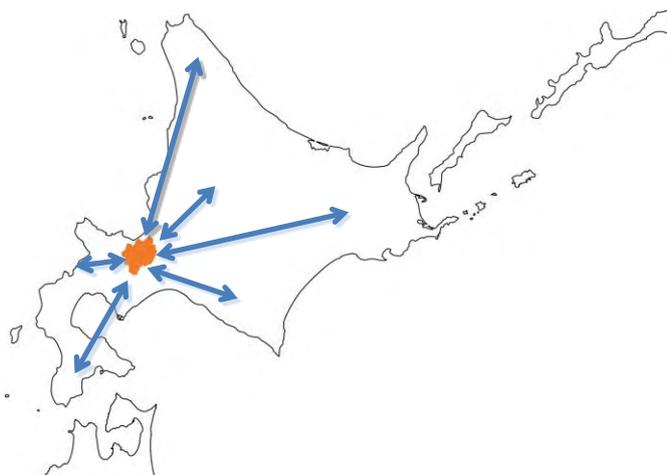
(2) 北海道及び札幌市をけん引する都心の役割

①活力があふれ、世界を惹きつける役割

- ・ 激しさを増す都市間競争のなかで、札幌市が確固たる地位を築き、国内外から多くのヒト・モノ・投資を呼び込むことで、北海道・札幌の経済発展に寄与するため、札幌の顔である都心が活力にあふれ、世界を惹きつける役割がある。

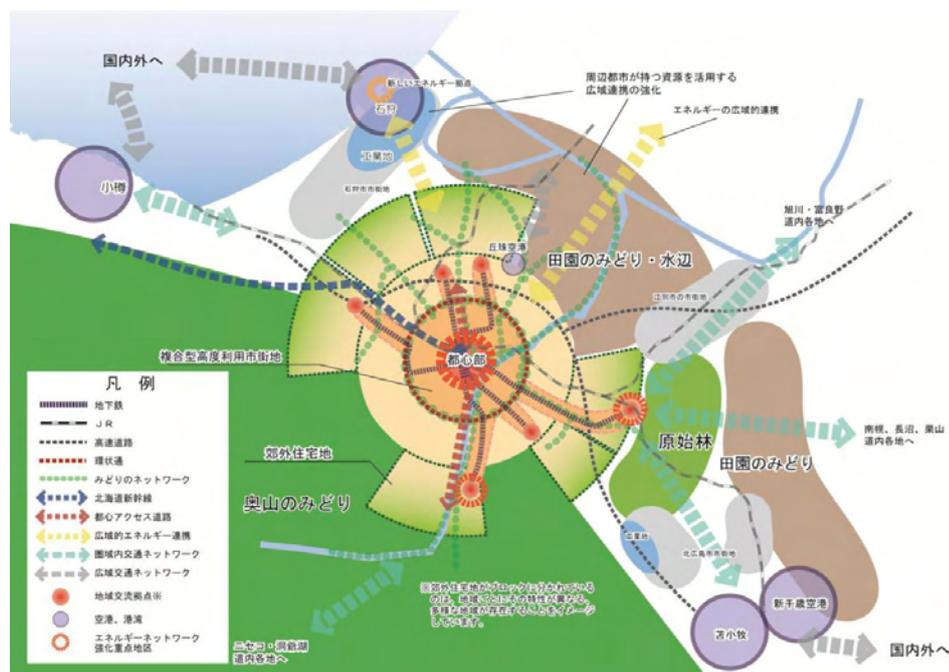
②道内市町村との連携・協調により北海道経済・産業の活性化をけん引する役割

- ・ 札幌圏における広域交通機能等、国内外とのネットワーク性の高さを活かし、道内市町村との連携・協調を促進することで、北海道全体の活性化をけん引する役割がある。



③市内主要拠点との連携から、相乗効果を発揮する中核としての役割

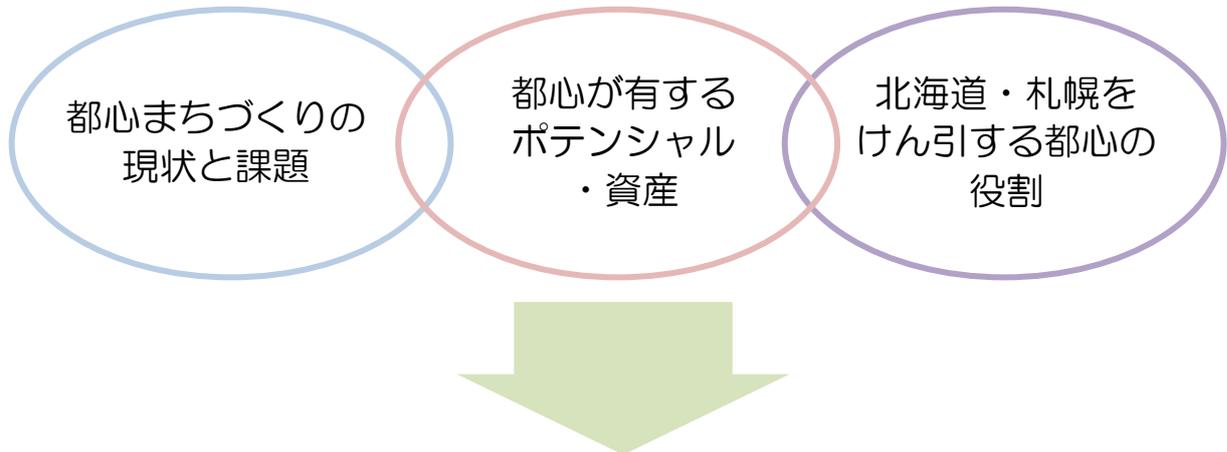
- ・ 市内主要拠点と、公共交通・道路ネットワークを介した結びつきを高め、都心の多様かつ高質な都市機能を維持・向上させることで周辺市街地の生活の質の向上を支援する役割がある。



札幌型の集約連携都市 将来の都市空間図（札幌市まちづくり戦略ビジョンより）

3 都心まちづくり計画の目標

(1) 目標を定める上での視点



視点①

世界が目を向ける成長戦略の発信

- 札幌の立地・気候・都市構造等の優位性を活かした都心強化の推進
- まちづくりを通じて国内外の投資を誘引する魅力・都市個性を強化

視点②

北海道・札幌の持続可能性を先導する都心の強化

- 人口減少、超高齢社会に対応し、北海道、札幌の経済的持続可能性を支える『道都さっぽろ』の中核としての都心のけん引力・発信力の発揮

視点③

札幌の風土・気候を活かしたライフスタイル・ワークスタイルの実現

- 誰もが憧れる身近な自然と高次な都市機能が共存した札幌固有の環境を享受できる暮らしの場の創造

視点④

まちづくりの実効性を高める連携・協働を提案

- 多様な主体の連携・協働により、都心まちづくりの実行性、持続性を支える戦略的なタスクフォースの実現

(2) 都心まちづくりの目標

札幌都心のまちづくりは、都心を取り巻く環境、都心の役割を踏まえ、北海道・札幌市をけん引する経済的な成長力を発揮するとともに、札幌の中核として札幌市民の豊かで健康的かつ札幌ならではの魅力と都市文化を享受できる暮らしを実現できる都市づくりを先導していくことが重要となります。

こうした視点を踏まえ、都心まちづくりの目標を次の二つの側面から設定します。

北海道・札幌の中核として世界に比肩する都心強化の側面から

国内外から活力・投資を呼び込む札幌都心ブランドの確立

～世界に誇れる環境性や防災性を備え、高次な都市機能が集積する持続可能で魅力のある都心とすることで、札幌都心ブランドを確立し、国内外から投資を呼び込み、北海道・札幌市の経済をけん引します。～

市民の暮らしの中心となる都心づくりの側面から

コンパクトな都心のライフスタイル・ワークスタイルの実現

～日常的な市民の訪れや、豊かな時間消費を支えるとともに、札幌を象徴する景観を備えた都市空間を創出すること、また働く場としての利便性・快適性の高い環境を備えることで、コンパクトな札幌らしいライフスタイル・ワークスタイルを実現します。

4 まちづくりを通じて目指すべき都心の姿

(1) 札幌市全体の都市づくりの理念～SMILEs～について

まちづくりに係る最上位計画である【札幌市まちづくり戦略ビジョン】では、都市空間創造にあたってのコンセプトとして、「S・L・I・M City Sapporo (スリム シティ サッポロ)」という考え方を掲げています。ここでいう「S・L・I・M」とは『Sustainability (持続可能性)』『Livable (安心・快適で質の高い生活)』『Innovation (創造性の発揮)』『Managing (エネルギーやモビリティなど多様なマネジメント)』という4つの概念から構築されています。

さらに、都市計画に係る上位計画である【第2次札幌市都市計画マスタープラン】においては、都市づくりの理念、基本目標として、この「S・L・I・M City Sapporo」の考え方をさらに進め、今後重視すべき視点を加え、新たな理念として「S・M・I・L・Es City Sapporo (スマイルズ シティ サッポロ)」を掲げています。新たに加えられた『Es』とは「Ecology (自然)」「Economy (経済)」「Energy (活力)」「Environment (環境)」等々、多様な意味合いを包含したものです。

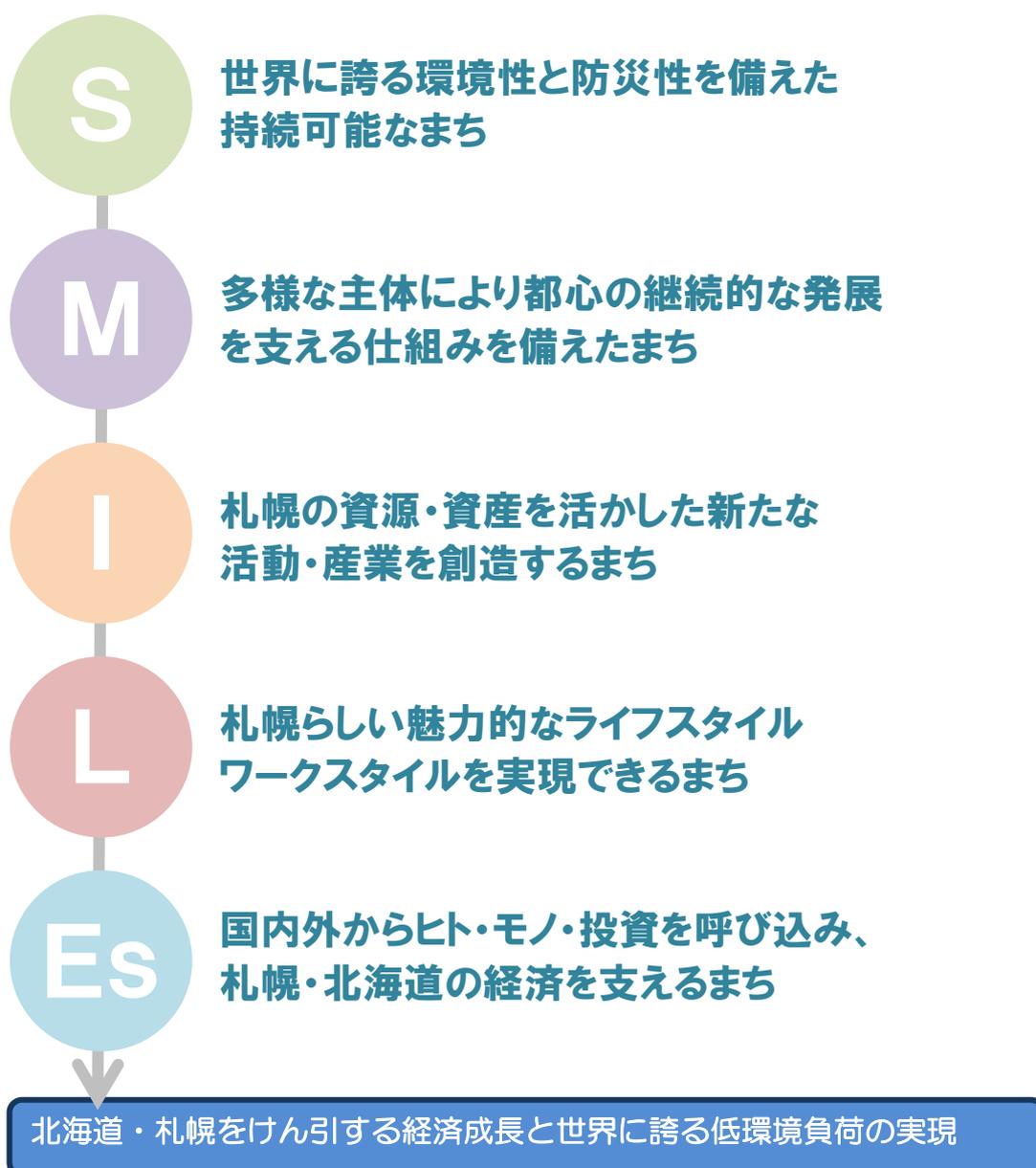
都心においては、これらの理念に基づく施策に相互に取り組み、総合的にまちづくりを進めます。



(2) 都心まちづくりを通じて目指すまちの姿

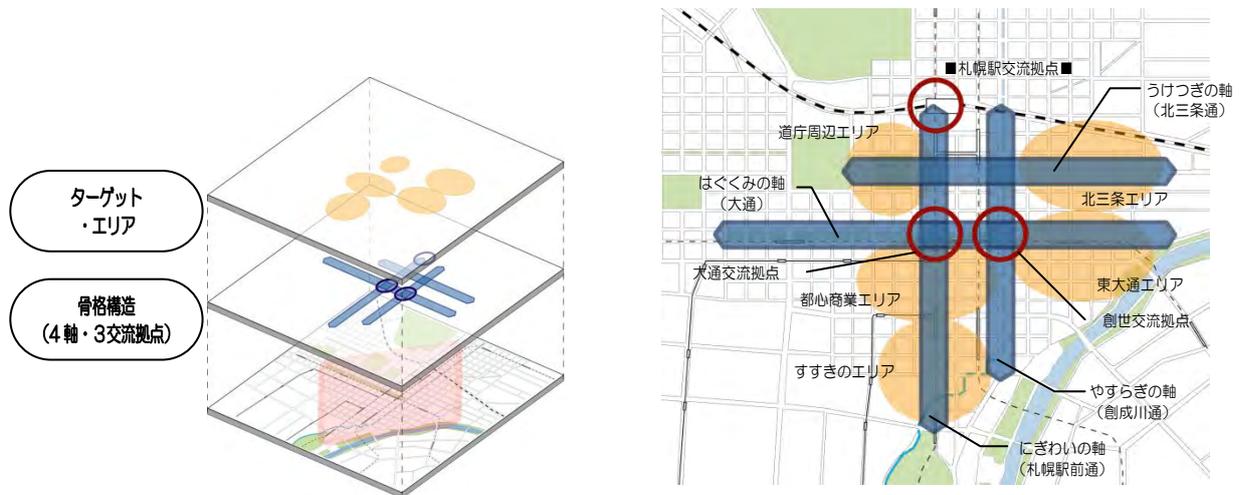
本計画においては、都心まちづくりの二つの目標に基づく取組を都心の特性、資源を最大限に活用しながら進めることで、都心ならではの『S・M・I・L・Es』を実現することを目指します。『S・M・I・L・Es』を具現化するまちづくりを進めることで、都心が札幌の新たな活力を創造し、経済的な成長を持続的に促進するとともに、札幌特有の資源、環境を活かした世界に誇る環境性を備えたまちづくりを象徴的に実現するものとします。

都心まちづくりを通じて目指すまちの姿として、以下の5つを掲げます。

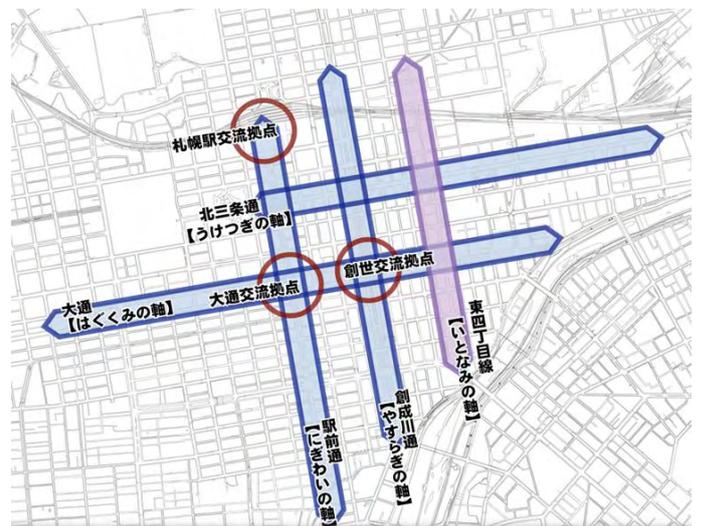


1 これまで都心まちづくりを支えてきた都心の構造

平成 14 年度に策定された都心まちづくり計画では、都心まちづくりを進めるうえで、多様な主体がまちづくりの力点を共有するために、4つの骨格軸と3つの交流拠点からなる『骨格構造』と、まちづくりの連鎖・波動的展開を進める『ターゲット・エリア』を設定しました。

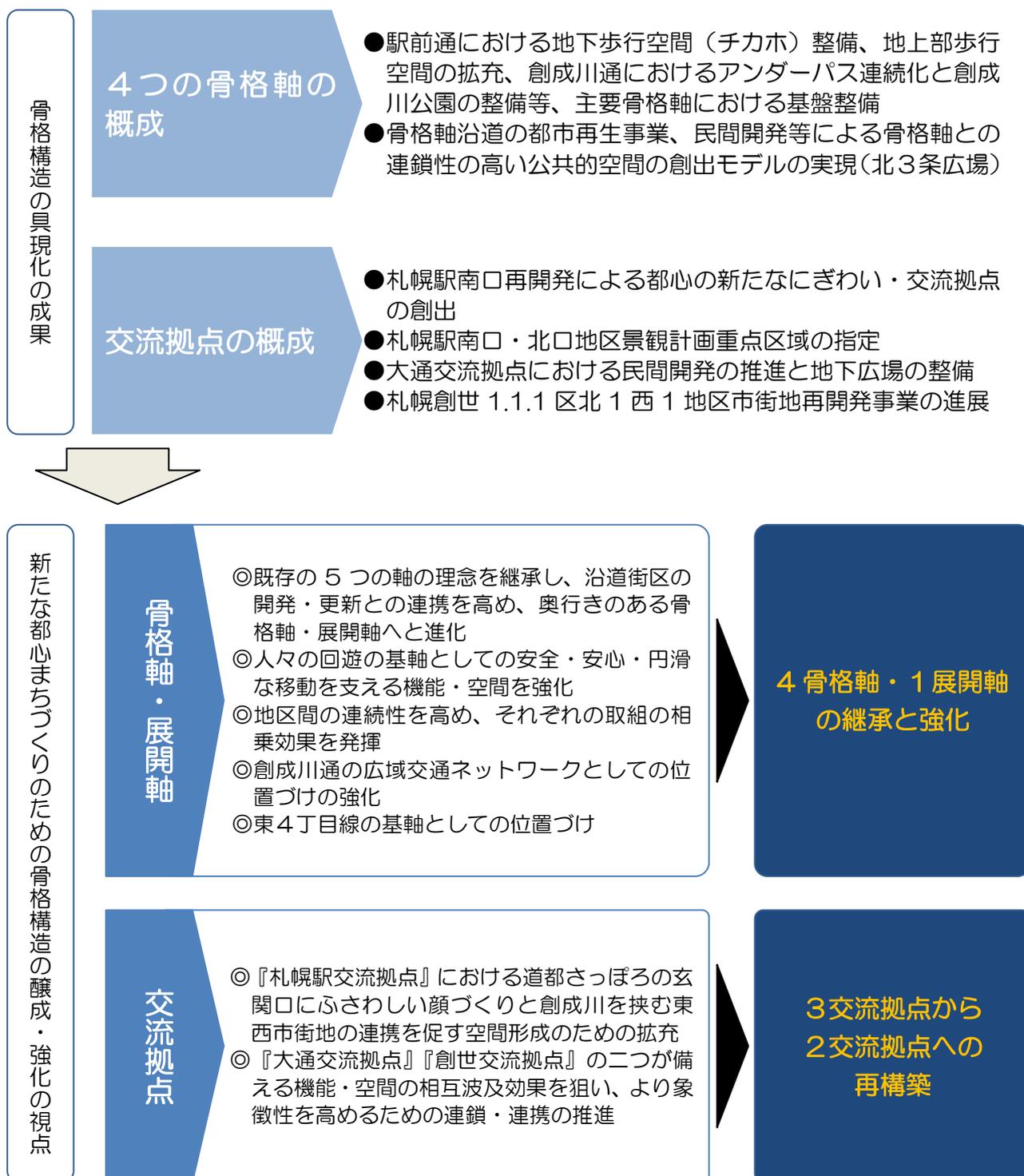


さらに、平成 23 年度に前都心まちづくり計画を補完するために策定されたさっぽろ都心まちづくり戦略では、都心まちづくりの後半 10 年間の力点として、創成東地区を『重点地区』に定めるとともに、地区のまちづくり展開の基軸となり、連鎖・連携を生み出すための『展開軸』として東 4 丁目線を定め、骨格構造を新たに『4 骨格軸-1 展開軸-3 交流拠点』として設定しました。



2 次の時代の都心まちづくりを支える骨格構造

(1) 骨格構造の見直しの視点

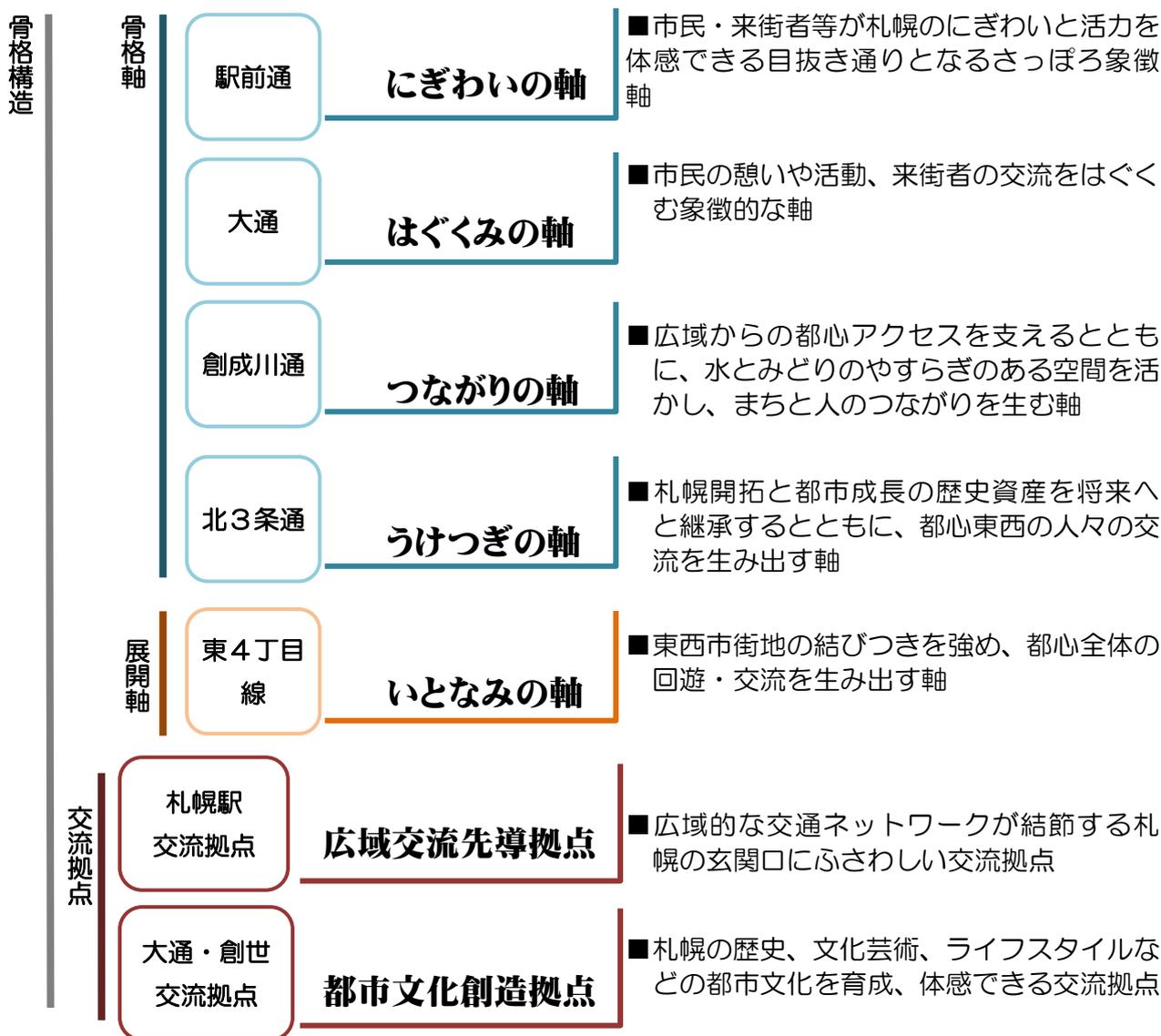


(2) 都心まちづくりの骨格構造

札幌駅交流拠点は北海道・札幌の国際競争力をけん引する広域交流の先導的な拠点として、また大通と創世交流拠点は二つの拠点の連鎖・連携により都市文化の創造を象徴する拠点として新たに位置付けます。

また、骨格軸のうち、創成川通については、これまでの『やすらぎの軸』という位置付けから、創成川通に求められる広域交通ネットワークとしての役割や、市民の交流を促進する場としての役割を踏まえ、国内外と『つながる』そして人が『つながる』軸として新たに【つながりの軸】として位置づけます。

こうした位置付けを踏まえ、以下に示すように、都心まちづくりの骨格構造を『4骨格軸-1展開軸-2交流拠点』として定義します。



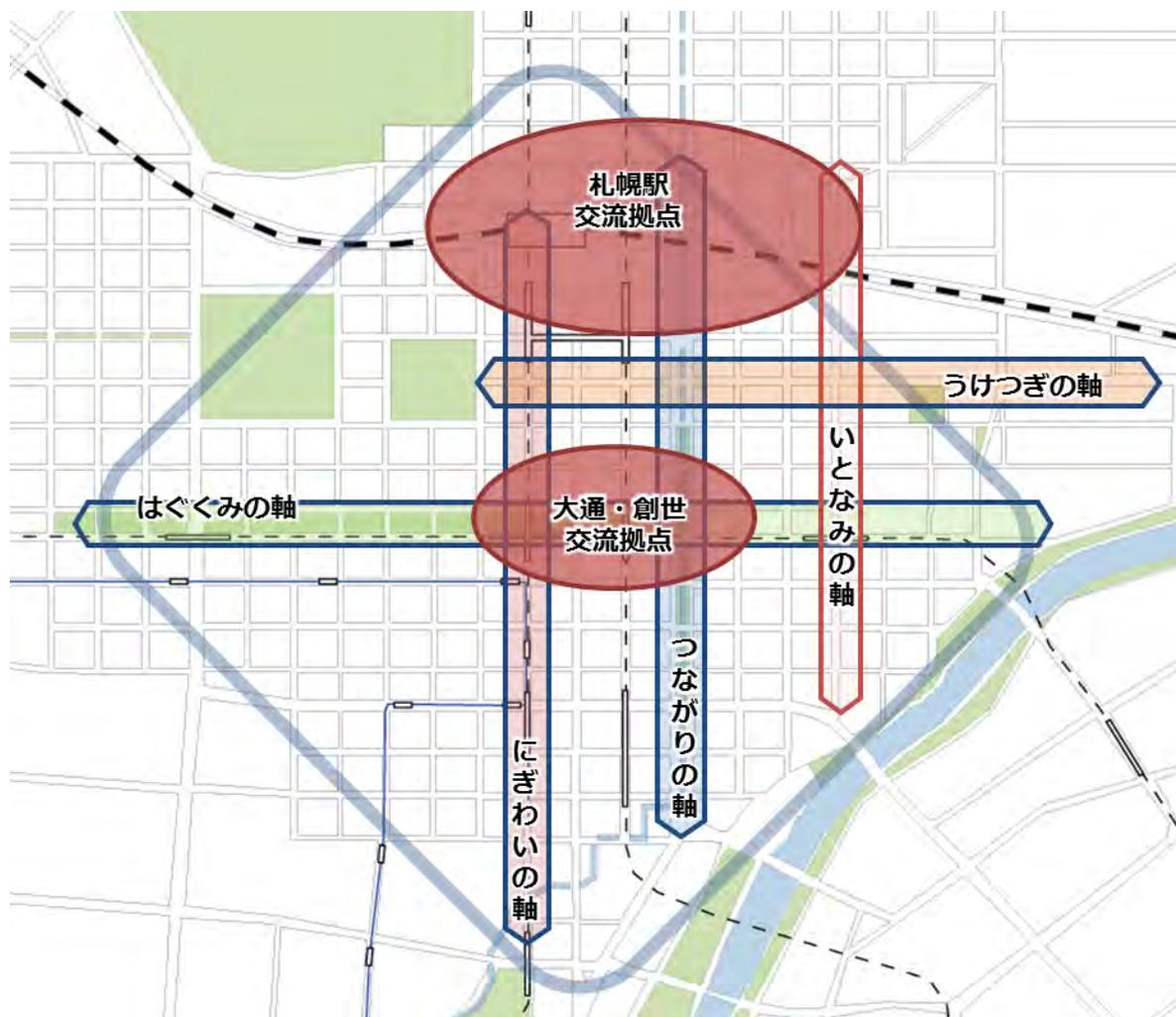


図 都心の骨格構造

3 都心まちづくりの新たなターゲットエリア

(1) 新たなターゲットエリア設定の視点

官民連携によるまちづくりの成果

現在のターゲットエリアにおける取組の進展

- 都市再生を先導する官民連携型都市開発の具現化
(北2西4地区、北3西4地区等)
- 道庁周辺エリアにおける骨格軸と一体的な都市空間形成による都心まちづくりのモデル形成(北三条広場)
- 道庁周辺エリアにおける骨格軸を介した回遊空間の形成と、エネルギーネットワークの展開(北2西4地区)
- 都心商業エリアにおける大通まちづくり会社を中心とした活性化の取組と、関係主体による新たなビジョンづくり
- 北三条エリアにおける都市再生の推進(北4東6周辺地区)
- 東大通エリアにおける地域主体のまちづくり活動の芽生え
- すすきのエリアにおける安全安心な歓楽街づくりに向けた取り組みの実施

上位計画の見直し

第2次札幌市都市計画マスタープランとの整合

- 第2次札幌市都市計画マスタープランで示した都心のゾーン

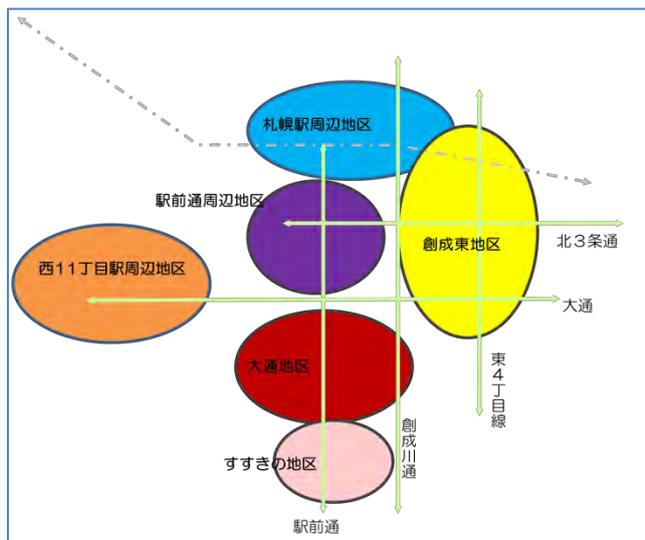


図 都市計画マスタープランで示したゾーン

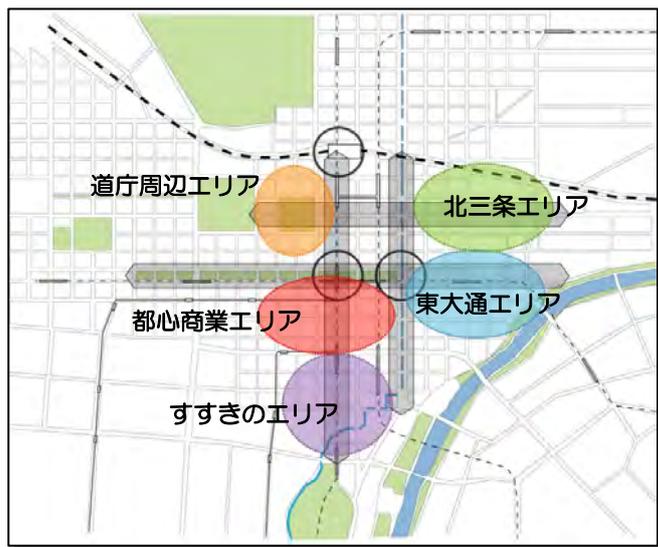
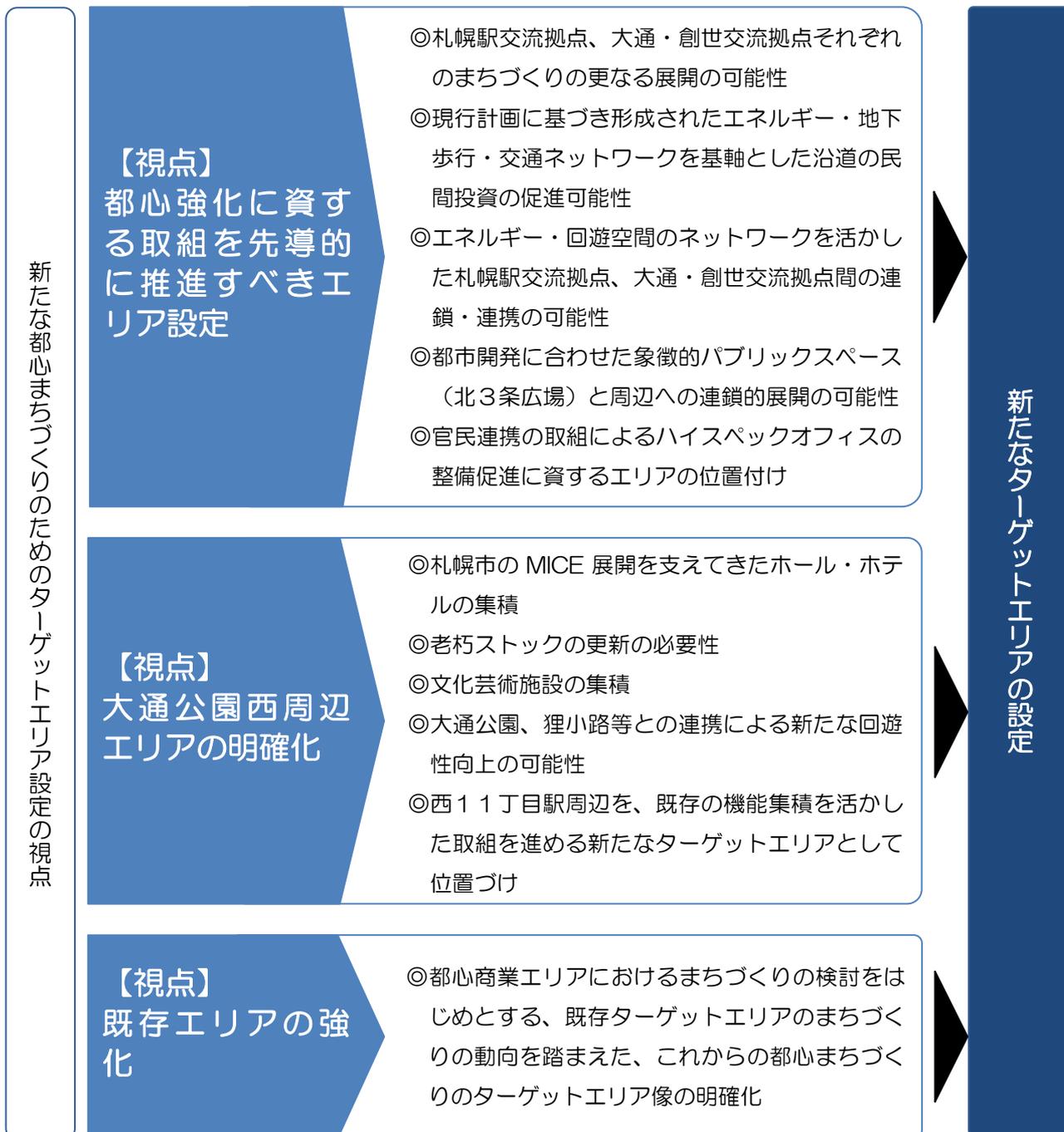
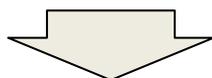


図 前都心まちづくり計画のターゲットエリア



(2) 新たなターゲットエリア

都心強化先導エリア

骨格構造を形成する交流拠点と骨格軸を包含した象徴的な機能・空間の形成を図るとともに、エネルギーネットワークの形成や高機能オフィス環境の整備等により国内外からヒト・モノ・投資を呼び込み北海道・札幌市の経済発展をけん引する都心まちづくりを先導するエリア

大通公園西周辺エリア

大通公園を軸として、当地区に集積するホール・ホテル等の交流施設を活かしたまちづくりを展開するエリア

都心商業エリア

沿道路面の魅力の再生と遺産の活用による中心商業地としての魅力向上を図るエリア

すすきのエリア

さっぽろの都市観光の魅力を高めるとともに、隣接する中島公園との連携等を通し、人々の交流を高め、歓楽街としての魅力を向上させるエリア

創成イースト北エリア

多様な生活支援サービスや起業環境の強化とともに、地区の歴史的なストックを最大限に活用し、創成川東西の市街地の連携と人々の回遊・交流を高めるエリア

創成イースト南エリア

コミュニティの場となる神社や市場など、地区の歴史を今に伝える資源を活かした、創成イーストの魅力を高めるまちづくりを推進するエリア

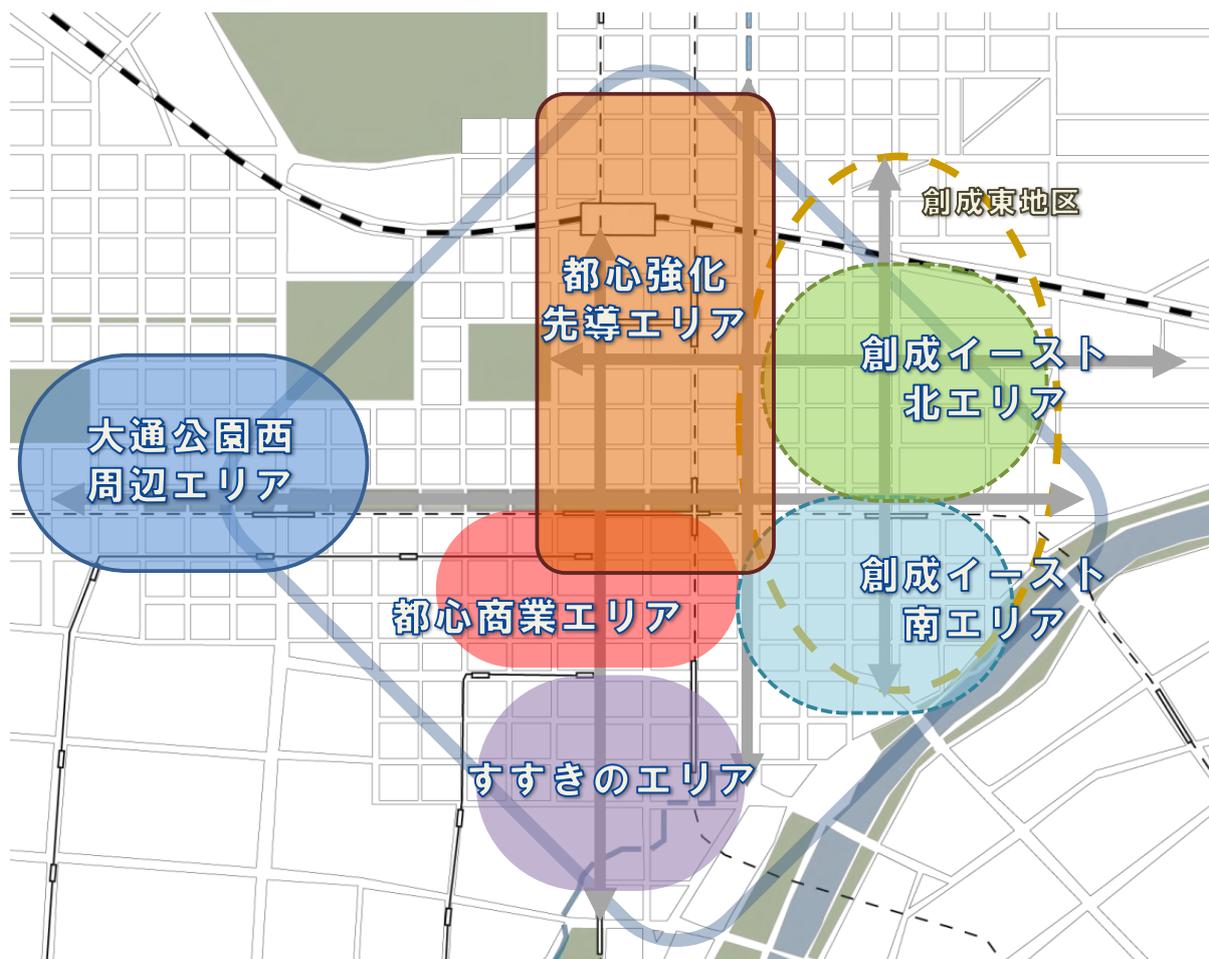


図 都心のターゲットエリア

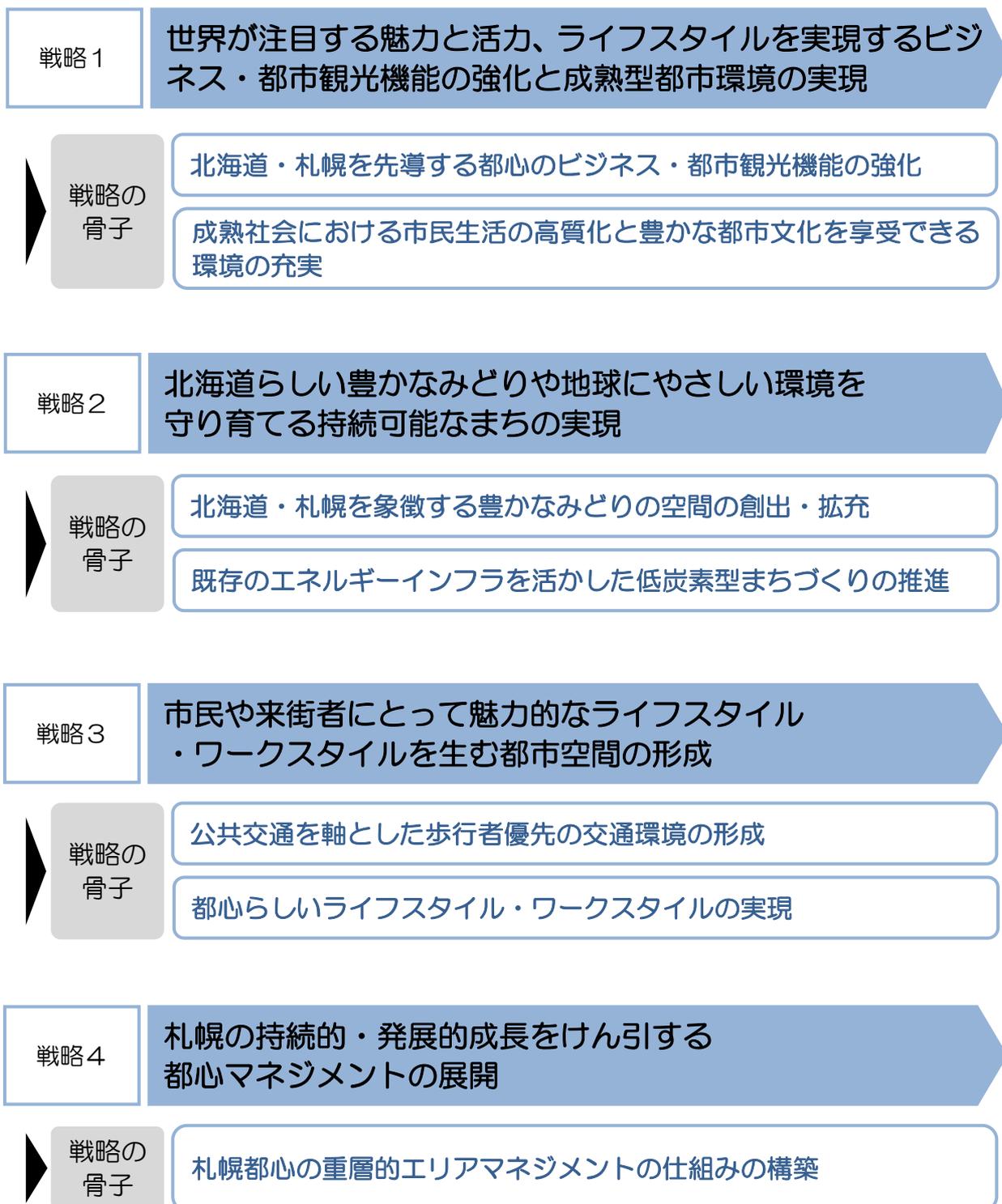
1 都心まちづくりの戦略の考え方

(1) 都心まちづくりを具体的に進めるための視点

都心のまちづくりを着実に展開する上で、波及性・連鎖性の高い取組を重点的に進めることが大事な視点となります。加えて、札幌が将来にわたって国内外に向けて魅力を発信し、注目される都市となる上では、世界に向けた明確なメッセージが必要となります。

そこで、まちづくりの目標並びに目指す姿と、受け皿となる骨格構造を中心とする都市空間形成の方向性を踏まえ、重要な取組を『都心まちづくりの戦略』として位置付け、その具体化のための取組の骨子に定めます。

(2) 都心まちづくりの戦略



2 【戦略1】世界が注目する魅力、ライフスタイルを実現するビジネス・都市観光機能の強化と成熟型都市環境の実現

～国内外に札幌の都市としての発展の可能性を伝え、投資意欲を喚起させるとともに、市民が札幌の都市文化を享受できる場の創出を目指します。この取組について、先導的な展開が可能な立地性・基盤整備等の優位性、民間開発等との連携可能性等を踏まえ、特に「都心強化先導エリア」において強力に推進します。

(1) 戦略の骨子

1 北海道・札幌を先導する都心のビジネス・都市観光機能の強化

現状と課題

- ・札幌都心の業務中心地としての移動環境、高いエネルギーセキュリティを備えた都市基盤等の形成
- ・アジア圏からの観光客の増加
- ・他都市と比較した自然災害の少なさによるBCP上の優位性
- ・高水準オフィスの不足
- ・他政令指定都市と比較して空港アクセスが弱い

ねらい

- ◎世界が目を向け、投資意欲を喚起される高次な機能・空間を備えた『都心強化先導エリア』の実現
- ◎北海道・札幌の経済をけん引する多様な階層のビジネスが展開できる環境の充実
- ◎自立分散型電源の設置とエネルギーネットワークの形成等による世界が目を向けるグリーン・強靱な札幌都心のブランドを象徴的に具現化
- ◎札幌・都心の資源や資産を活かした観光交流の促進とMICE環境の充実
- ◎都心におけるビジネス・観光交流の多様性を支える東西市街地連携強化
- ◎札幌の広域的なネットワークの一翼を担う幹線道路として、都心と高速道路間のアクセス強化

2 成熟社会における市民生活の高質化と豊かな都市文化を享受できる環境の充実

現状と課題

- ・オリンピック期に形成された都市基盤の老朽化、成熟社会に対応した強化・改善の必要性
- ・官民連携プロジェクトによる高次な都市文化機能の誘導の波及性・連鎖性の実現
- ・創成東地区をはじめとする都心周辺への居住機能整備の進展

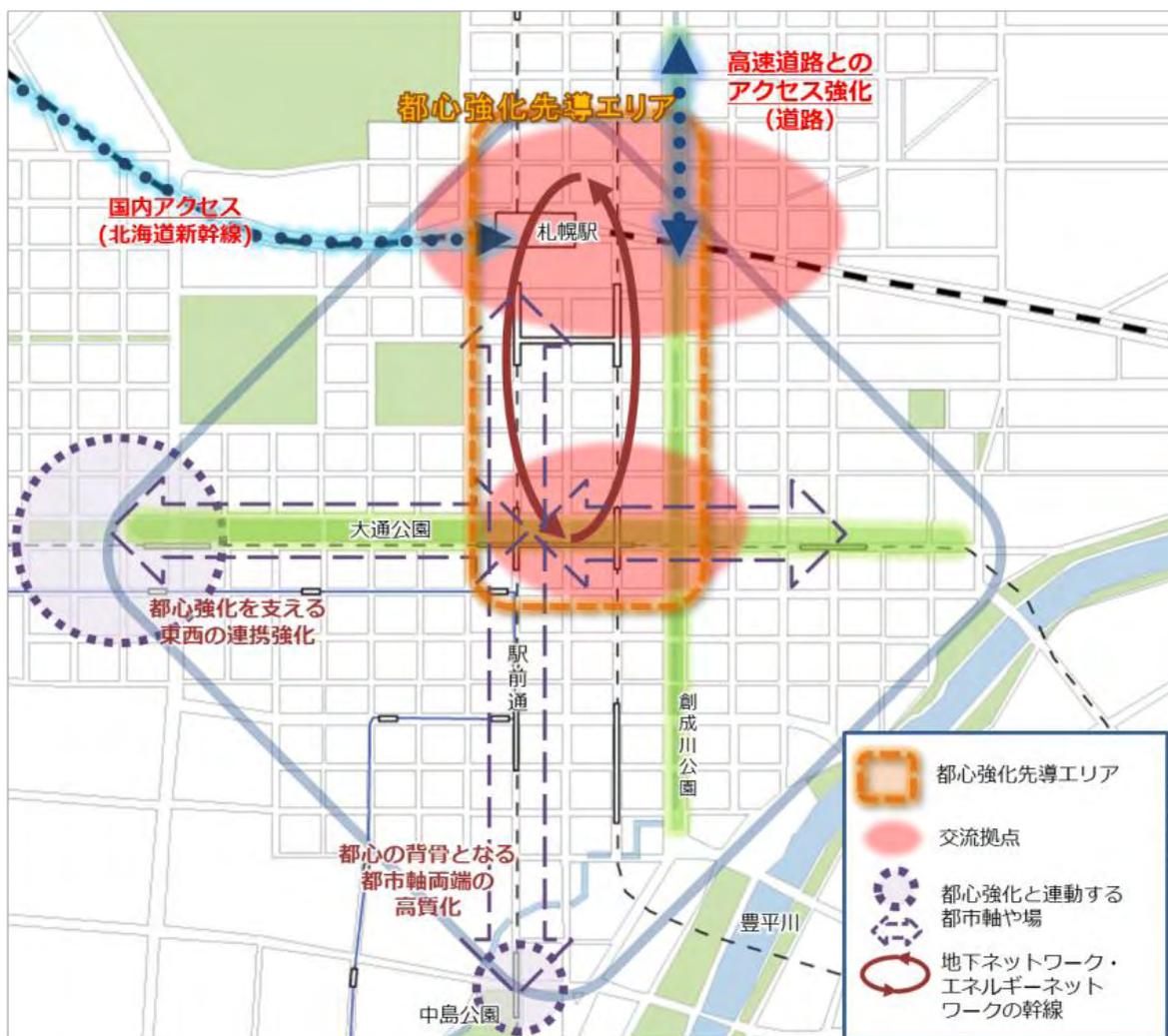
ねらい

- ◎都市発展・成長期に形成された地下空間、公共交通等の都市基盤の成熟社会に対応した転換・高質化
- ◎官民連携プロジェクト、都心ならではの高次な機能集積を活かした世界が憧れる札幌らしいライフスタイルを実現
- ◎都心の高次な都市機能を日常的に享受できる都心居住の魅力を高める東西市街地の連携強化

(2) 戦略推進のための施策

- 施策 01 国内外からの人・情報・投資を呼び込み活力を創造・象徴する都心のビジネス環境・機能の強化
- 施策 02 災害リスクの低い地理的優位性を活かした、エネルギー多重化によるBCDの形成
- 施策 03 札幌・都心の資源や資産を活かした観光交流の促進や MICE 環境の充実
- 施策 04 都市開発や企業立地を促進するインセンティブの構築
- 施策 05 都心強化先導エリアにおける札幌駅交流拠点、大通・創世交流拠点の形成

※BCD：Business Continuity District～事業継続基盤強化地区



3 【戦略2】北海道らしい豊かなみどりや地球にやさしい環境を守り育てる持続可能なまちの実現

～北海道・札幌を象徴するみどりの空間形成と低炭素なまちづくりにより、環境にやさしく、持続可能性が高いまちを目指します。

(1) 戦略の骨子

1 北海道・札幌を象徴する豊かなみどりの空間の創出・拡充

現状と課題

- ・都心における樹林地率は約 10%（平成26年度値）
- ・札幌市市街化区域における土地利用別緑被率をみると、公共用地における緑被率が30%強を占める一方、民有地における緑被率は7%弱。（平成26年度値）
- ・環境にやさしいまちの実現のため、豊かなみどりの空間の更なる創出の必要性

※樹林地率；樹林が生息している土地の割合

※緑被率；緑被地（樹林地、草地等の植物で被われた土地）の割合

ねらい

- ◎駅前広場をはじめ、都心の主要なパブリックスペースにおいて、街なかの緑豊かな空間形成を促進
- ◎民間再開発事業に合わせたみどりの確保や民有地緑化の支援等、官民連携による都心部のみどりの創出

2 既存のエネルギーインフラを活かした都心の低炭素化の促進

現状と課題

- ・オリンピック期の建物の更新時期の到来により、今後都心の多くの建物が建替え時期を迎える
- ・都心部は業務系建物の比率が大きく、住宅に比べエネルギー消費量が大きい
- ・札幌都心の重要な資産である熱供給ネットワークが広範囲に広がっているが未接続建物も多い

ねらい

- ◎既存エネルギーネットワークを活かし、民間開発・更新等を通じたネットワークへの接続を促進し、環境負荷の低い都心づくりを促進
- ◎老朽化した建物の更新を契機としたきめ細やかなグリーンビルディングの普及促進による低炭素化の推進

(2) 戦略推進のための施策

施策 07 北海道・札幌を象徴する豊かなみどりを感じる空間の創出

施策 08 エネルギーネットワークの実現

施策 09 世界標準のグリーンビル化の推進



4 【戦略3】市民や来街者にとって魅力的なライフスタイル・ワークスタイルを生む都市空間の形成

～市民が四季を通じて都心に憩い、活動できる豊かな空間を官民の連携から創造するとともに、誰もが札幌らしいライフスタイル・ワークスタイルを享受できる都心づくりを進めます。

(1) 戦略の骨子

1 公共交通を軸とした歩行者優先の交通環境の形成

現状と課題

- ・すすきの⇄大通間の路面電車ループ化の開業
- ・札幌駅前通地下歩行空間の整備や民間施設の地下接続による地下歩行ネットワークの拡充
- ・附置義務制度の運用による一般車の駐車場の余裕や建物ごとに設置される駐車場の出入口による街並みや歩道の分断
- ・自転車の走行空間や駐輪場の不足による歩行環境の阻害
- ・超高齢社会を背景とした札幌駅、大通駅周辺における上下移動の負担

ねらい

- ◎公共交通の利便性向上に加え、不必要な自動車利用の抑制による人と環境を重視した都心交通環境の創出
- ◎多様な交通モードをいかした誰もが都心に来やすく、移動しやすいまちの実現
- ◎まちづくりと連携した実践的な取組による歩きたくなるまちの実現

2 都心らしいライフスタイル・ワークスタイルの実現

現状と課題

- ・生産年齢人口の流出と、それに伴う実質市内総生産の減少
- ・大卒者の首都圏への流出の高さ
- ・創成東地区における都心居住人口の急増（10年で約2倍の人口増加）

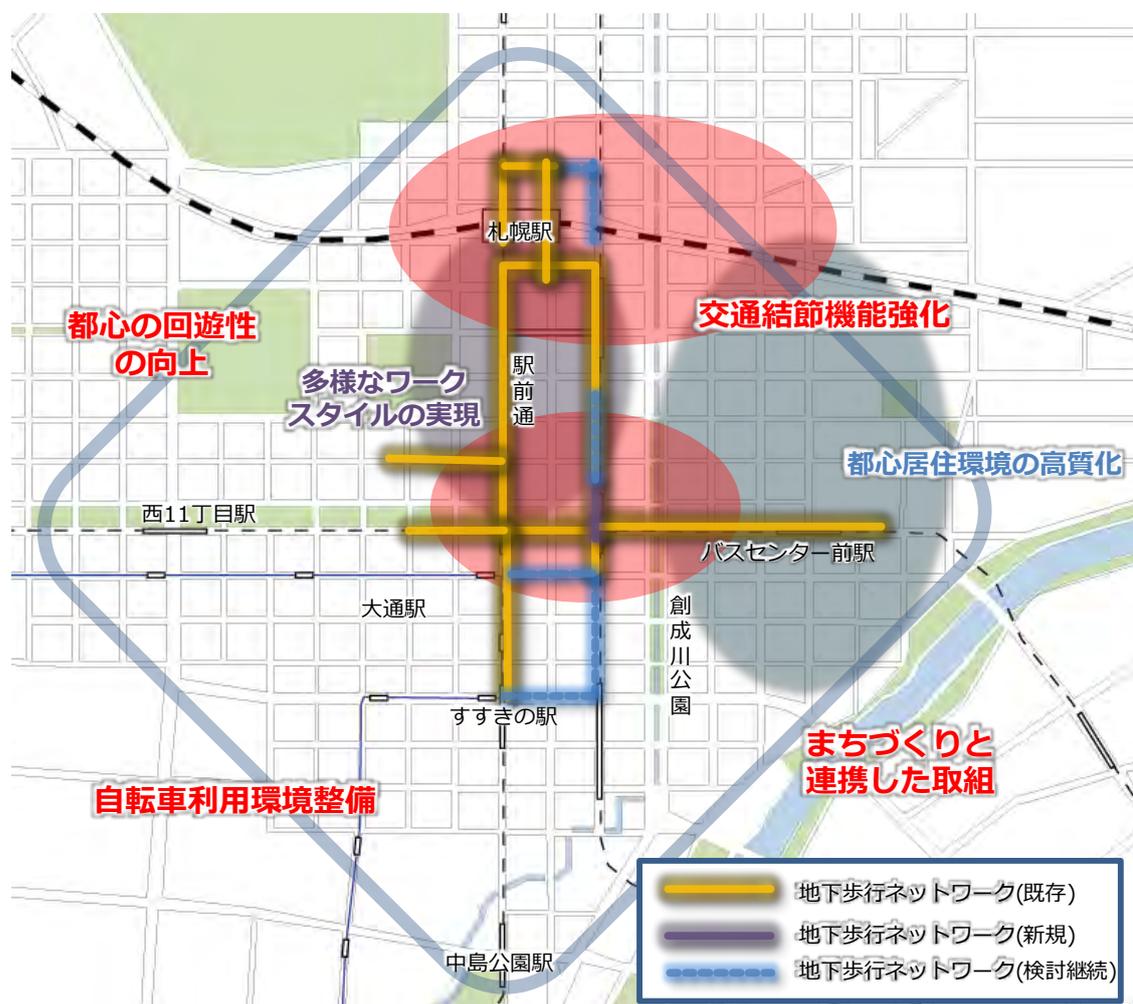
ねらい

- ◎質の高い都心居住環境と札幌らしい豊かなパブリックライフの実現
- ◎都心の活力の強化を支えるとともに、市民が都心で自己実現できる多様なワークスタイルの展開を支える起業環境の強化
- ◎既存ストックを活用したSOHOやコワーキングスペース等の創出

※SOHO；Small Office Home Office～パソコンやインターネットを活用した小規模オフィスや自宅で仕事をする形態

(2) 戦略推進のための施策

- 施策 10 快適に過ごせる人を中心とした回遊環境の整備
- 施策 11 誰もが都心にアクセスできる利便性の高い交通ネットワークの充実
- 施策 12 誰もが都心の魅力と活力を享受できる生活環境・公共空間の整備
- 施策 13 都心部における多様なワークスタイルを支える就業環境の強化



5 【戦略4】札幌の持続的・発展的成長をけん引する 都心マネジメントの展開

～都心まちづくりを持続的・発展的に展開するために、多様な主体からなるまちづくりの推進体制を構築します。

(1) 戦略の骨子

1

札幌都心の重層的エリアマネジメントの仕組みの構築

現状と課題

- ・まちづくり会社の設立と主に公共空間を活用したイベント事業等の展開
- ・道路占用の特例制度を活用した公共空間の先進的な活用
- ・札幌・都心の魅力を対外的に発信する強力なシティプロモートの要請
- ・創成東地区における地域主体のまちづくり活動の実験的展開、まちづくり組織化に向けた機運の高まり
- ・エリア別の取組の波及効果、相乗効果による都心の活力創造を目指したエリア間の連携強化の必要性

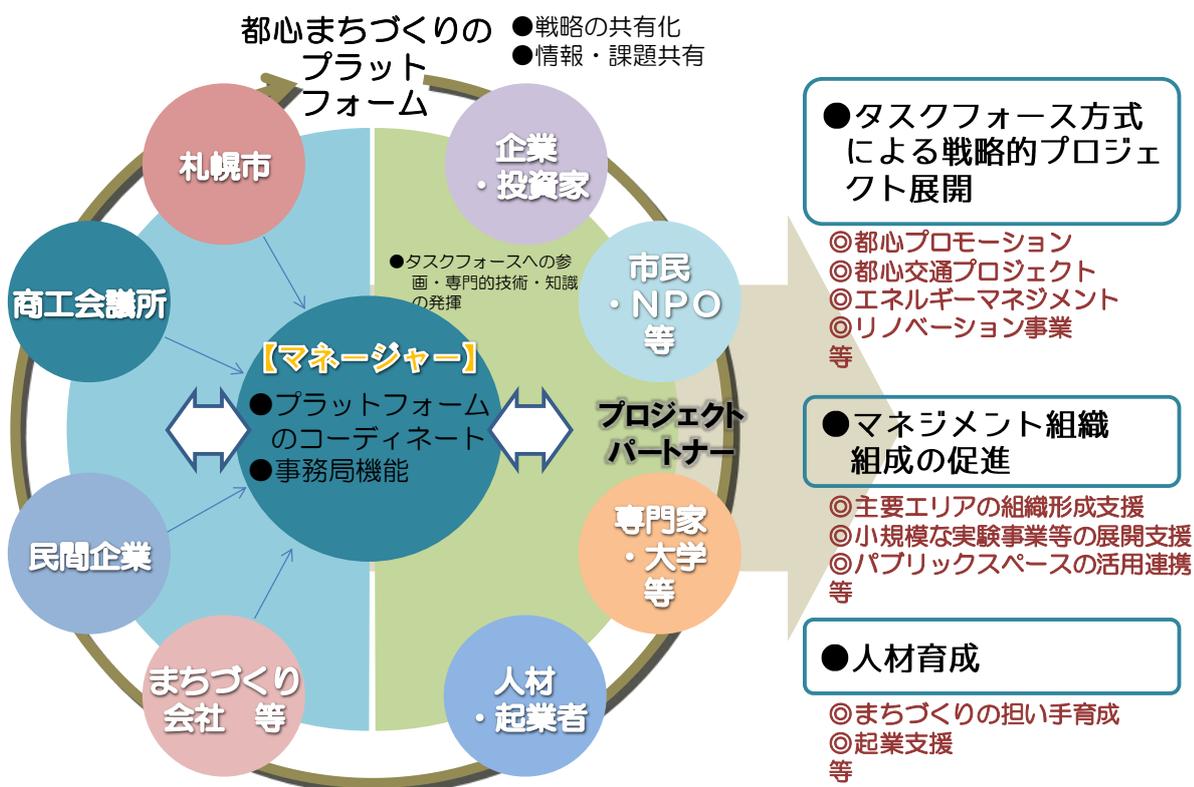
ねらい

- ◎都市づくりの理念の展開に資する都心の一体的なマネジメントの推進
 - ～**Sustainability**：環境配慮型市街地形成を目指す、スマートシティマネジメント
 - Livable**：公共空間の積極的活用や居住・就業環境の充実を目指す、エリア魅力アップマネジメント
 - Innovation**：国内外からの来街者誘致・MICE 環境の強化等、世界に発信する国際戦略マネジメント
 - Economy・Employment**：国内外からの企業立地推進等、投資喚起と新たな起業・創業に資するシティプロモートマネジメント
- ◎エリアマネジメント組織がまちづくりの観点から地域の開発に事前に関与できる仕組みの検討
- ◎都心主要地区における公共・共用空間の活用、既存ストックのリノベーション等を通じたエリア間の活動連携の促進
- ◎創成東地区等、各エリアにおけるまちづくり機運の高まりを踏まえ、関係者との協議調整、支援を通じて地区特性に応じたエリアマネジメントの仕組みづくりを実現
- ◎既存エリアマネジメントの強化・促進・育成

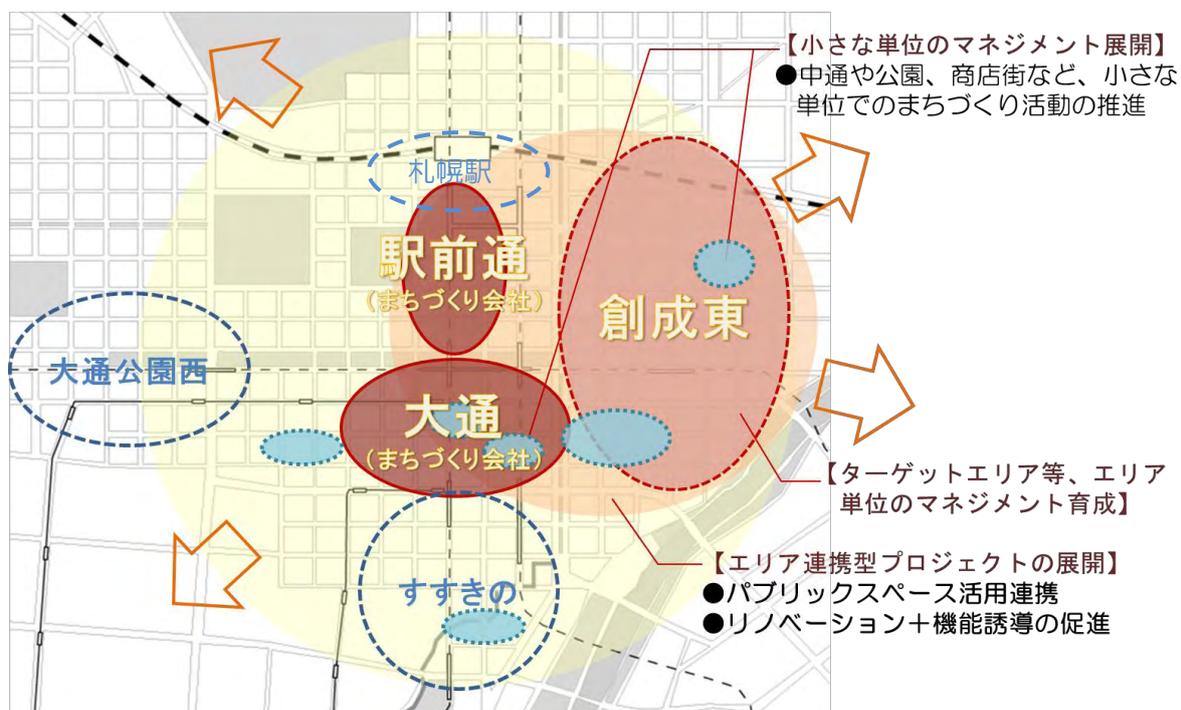
(2) 戦略推進のための施策

- 施策 14 都心の魅力と活力を束ね、発信するプラットフォームの組成
- 施策 15 エリア・場の特性に応じたマネジメントの促進
- 施策 16 周辺エリアとの連携による北海道・札幌の魅力発信の推進

●都心のまちづくりの関係主体からなるプラットフォームの組成



●都心まちづくりの重層的なマネジメントの展開イメージ



1 都心の空間の持続的成長・強化のための取組

都心まちづくりを具体的に推進する上での力点となるまちづくりの戦略とその展開プログラムを定めるとともに、長期的な視点に立ち、都心に起こる様々なまちづくりの機運が都心の構造の具現化に資する取組になるように適切に誘導することが重要です。

そこで、都心の構造となる骨格軸、展開軸並びにターゲットエリアといった主要な要素についてあるべき姿を指針として定めるとともに、その具現化に必要とされる取組の方向性を骨子として定めるものとします。

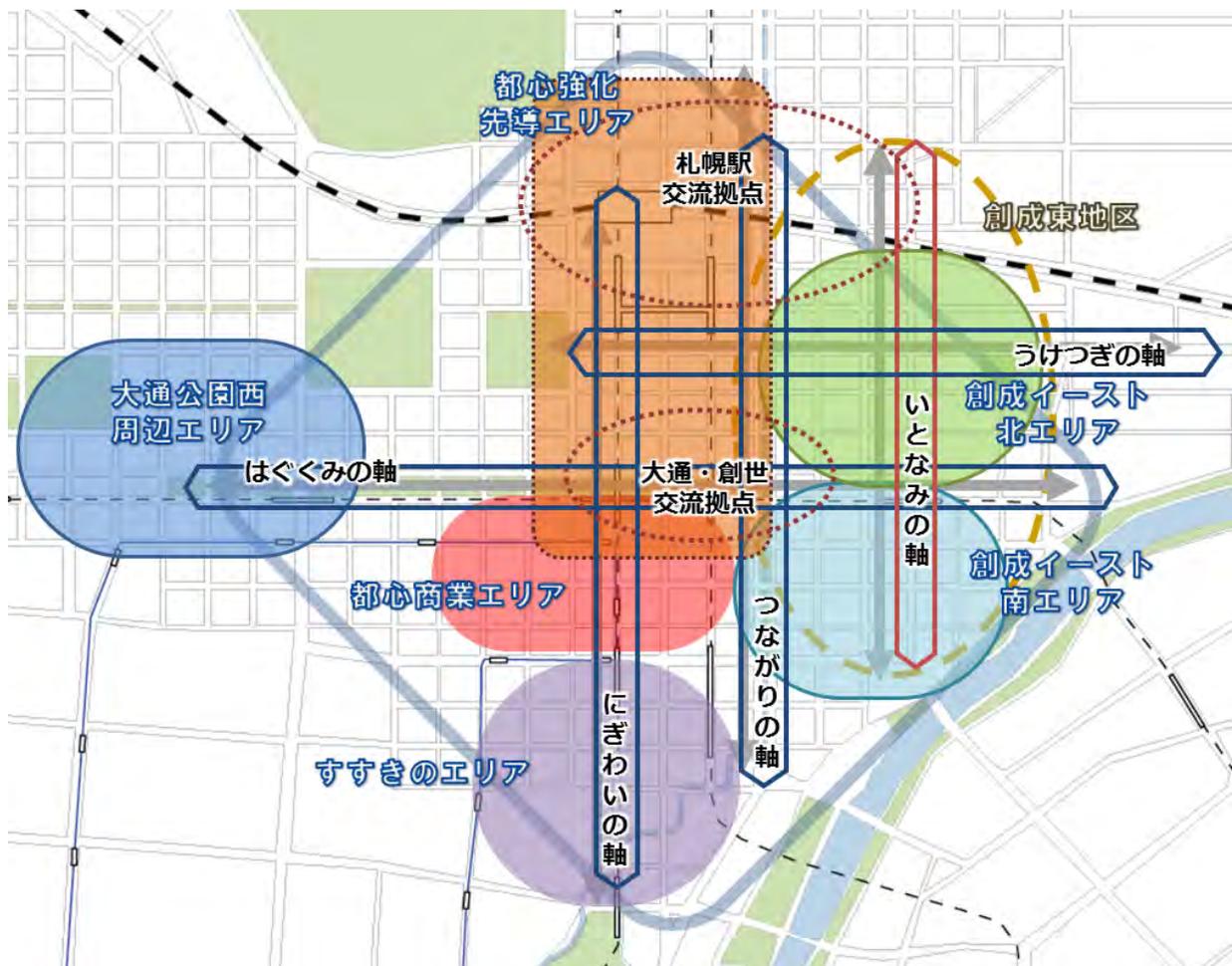
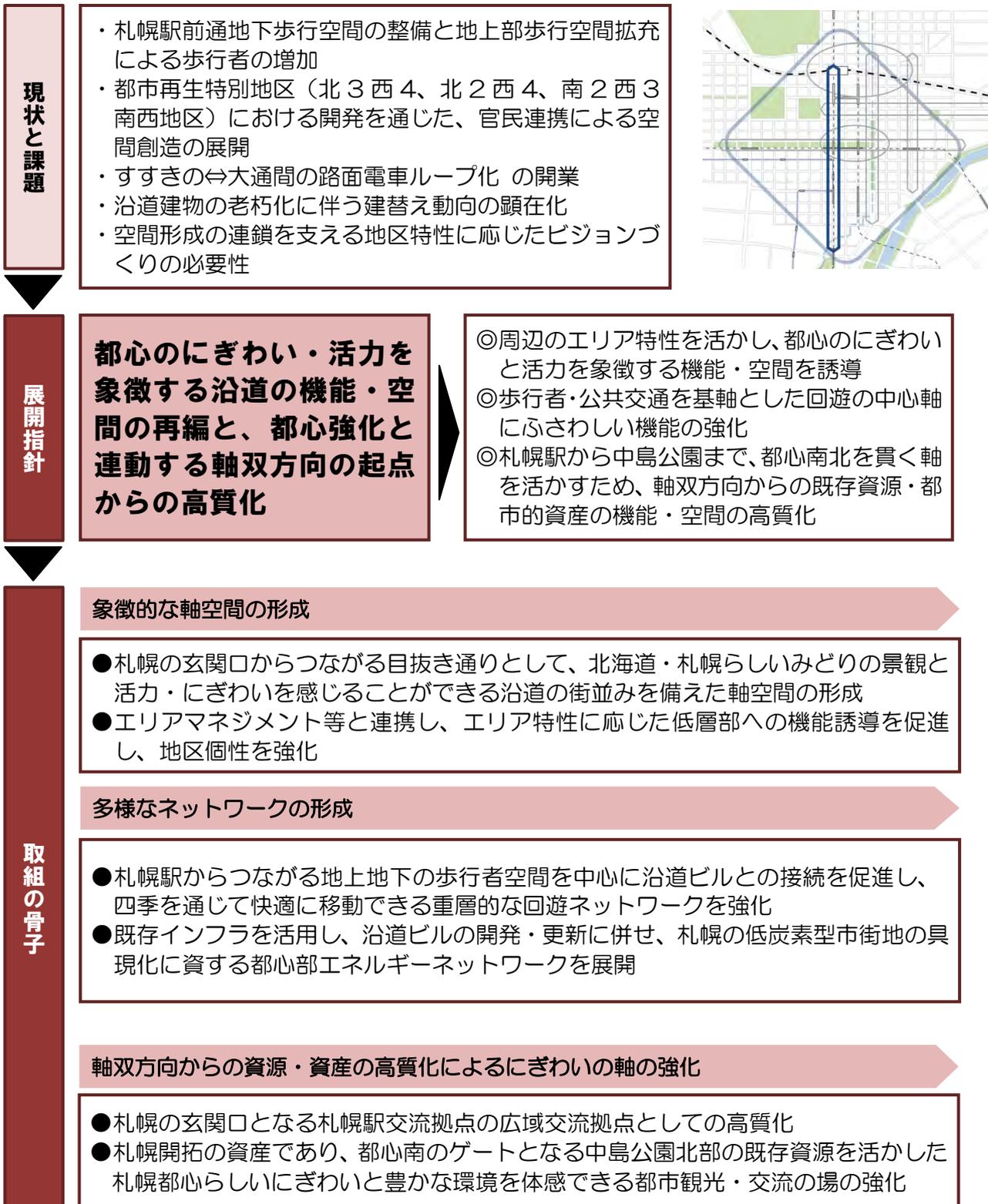


図 都心の骨格構造とターゲットエリア

2 骨格軸形成・強化の指針

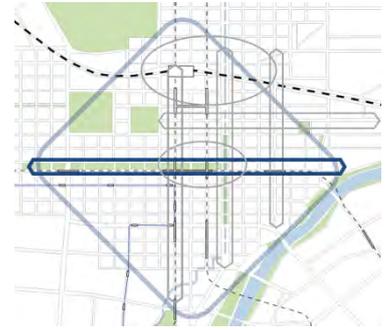
2.1 駅前通 ～にぎわいの軸～



2.2 大通 ～はぐくみの軸～

現状と課題

- ・大通交流拠点地下広場の整備に伴う駅前通との結節点における公共空間の拡充
- ・大通公園では、年間を通じたイベント等、交流の場として活用
- ・大通の軸形成に係るビジョンづくりの必要性



展開指針

都心を東西に貫く軸として、潤いあるみどりと交流の場としてのにぎわいをはぐくむ空間の創出

- ◎沿道の特性に応じたみどりの空間と活用空間のメリハリのある空間の創出
- ◎沿道空間と一体となった中核的なパブリックスペースとしての大通の実現
- ◎創成川以西の賑わいを創成東へ波及させるための連続性のある空間形成

取組の骨子

骨格軸の強化

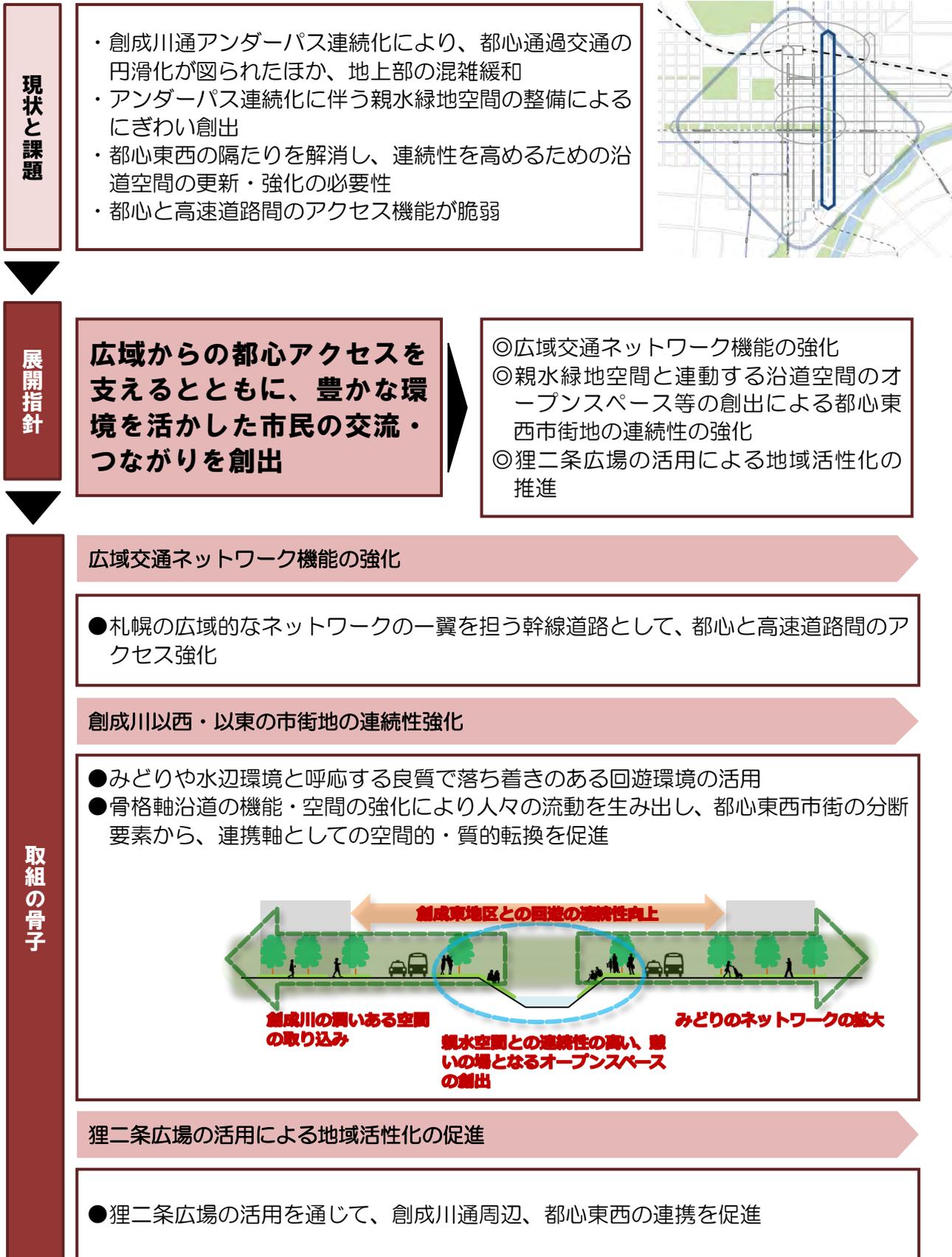
- 大通公園を中心に南北の両街区とのパブリックスペースや回遊空間、みどりの連続性を生み出し、都市軸としての象徴性をより強力に具現化
- 大通の軸形成に関わるビジョンづくりと、それを踏まえた地区計画・景観計画重点区域の検討



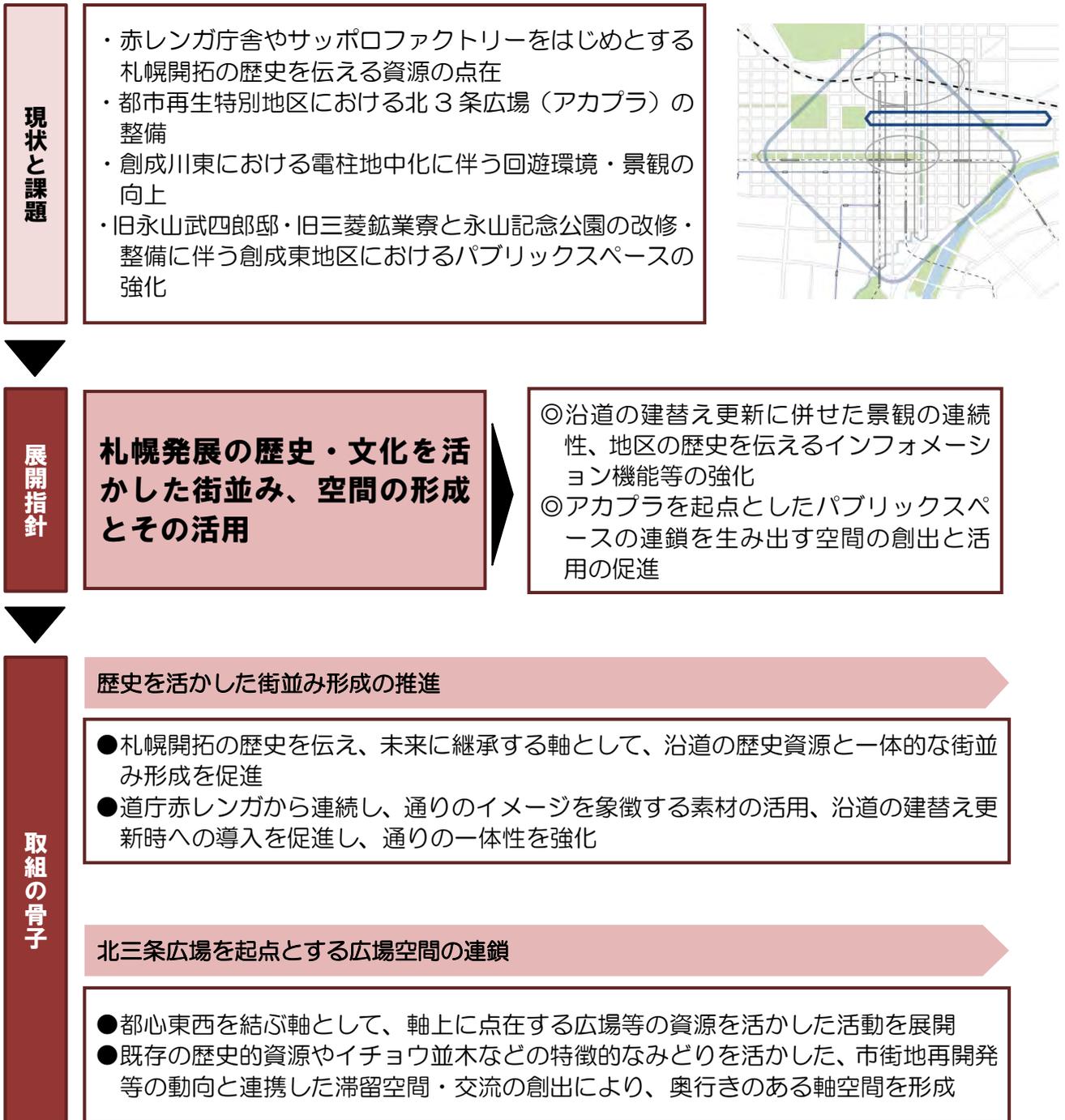
都心東西市街地の連携強化

- 西11丁目周辺エリアと創成東地区を結ぶ東西軸として、両エリアに固有の歴史・文化・集客資源等への人々の流動を生み出す回遊性の高い移動空間を強化
- 土地利用更新等を通じたみどりの強化、回遊空間の強化に伴い、創成川以西・以東の連続性を向上

2.3 創成川通 ～つながりの軸～



2.4 北3条通 ～うけつぎの軸～

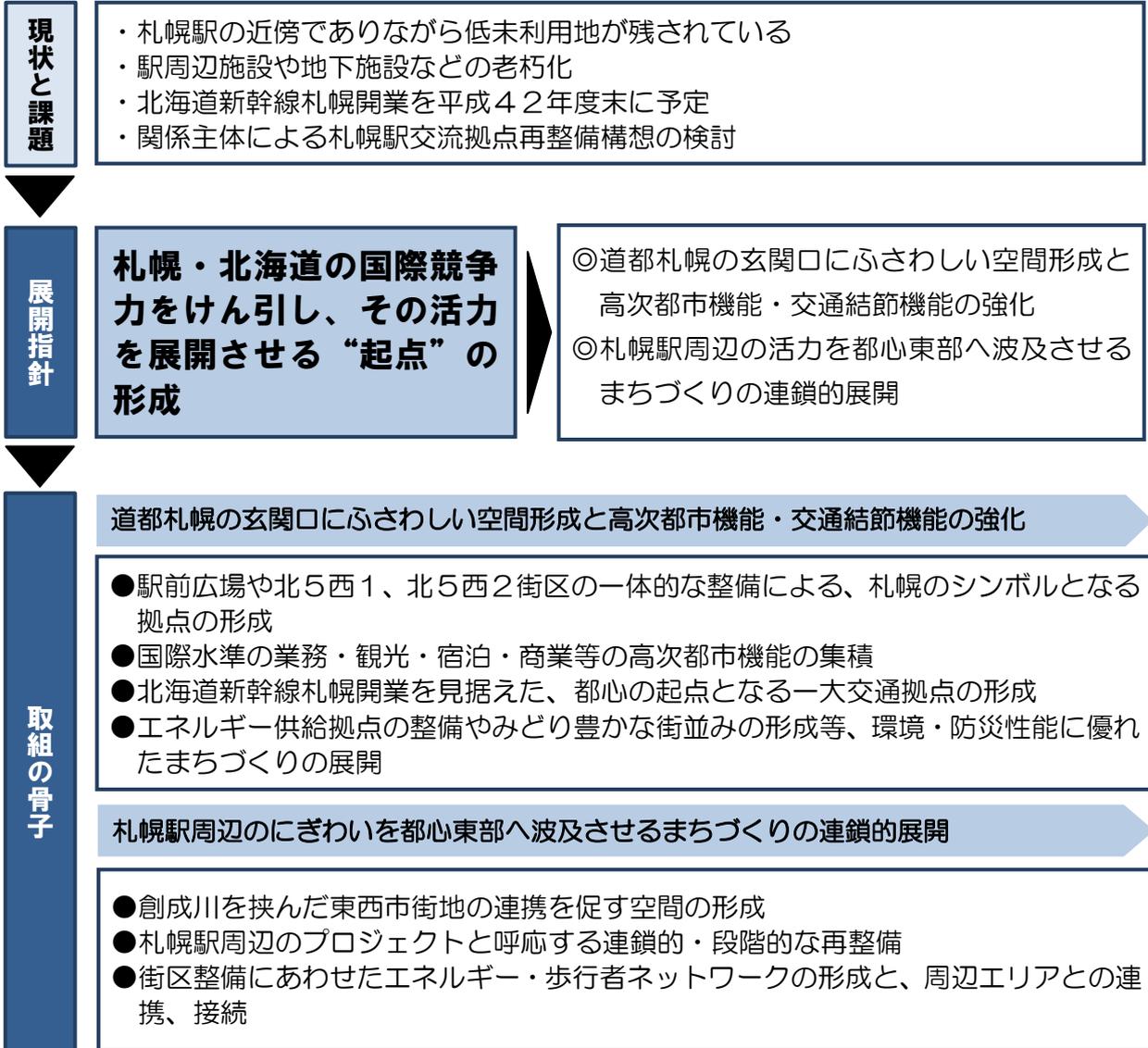


2.5 東4丁目線 ～いとなみの軸～



3 交流拠点形成・強化の指針

3.1 札幌駅交流拠点～広域交流先導拠点



3.2 大通・創世交流拠点～都市文化創造拠点

現状と課題

- ・時計台やテレビ塔、大通公園、創成川公園等、観光・交流資源の集積
- ・大通拠点まちづくりガイドラインの策定と大通交流拠点を構成する四つ角街区の建替え・更新の進展
- ・大通交流拠点地下広場の整備
- ・創世 1.1.1 区北 1 西 1 地区市街地再開発事業の推進
- ・創成川通アンダーパス連続化事業と創成川公園の整備
- ・創成川を介した東西連携と大通を介した南北の連携の弱さ

展開指針

質の高い、文化的なライフスタイルを支える機能・空間の形成

- ◎都心における象徴的な都市文化拠点の創出
- ◎札幌の顔となる大通を基軸とした多様な活動、交流の創出
- ◎骨格軸を介した東西・南北市街地の連携・結びつきの強化

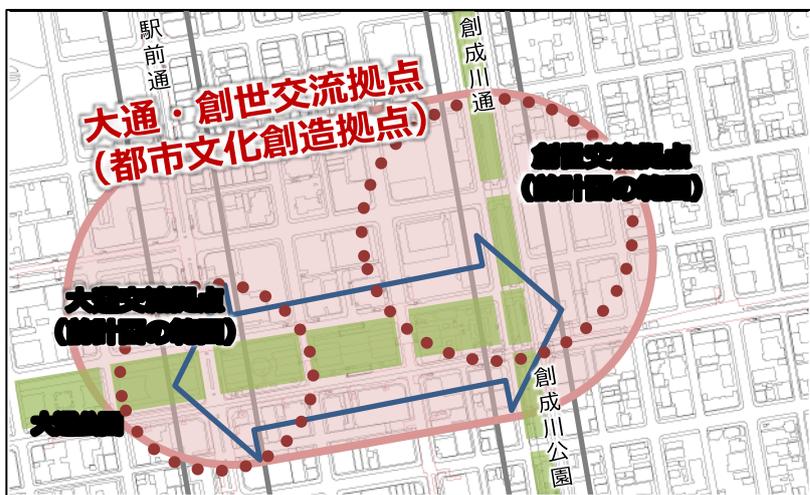
取組の骨子

札幌の都市文化を発信・体感する拠点機能の展開

- 創世 1.1.1 区北 1 西 1 地区における官民連携プロジェクトをはじめとする札幌の都市文化を発信・体感する拠点機能の形成

交流拠点を核とした、人とまちをつなげるのネットワークの強化

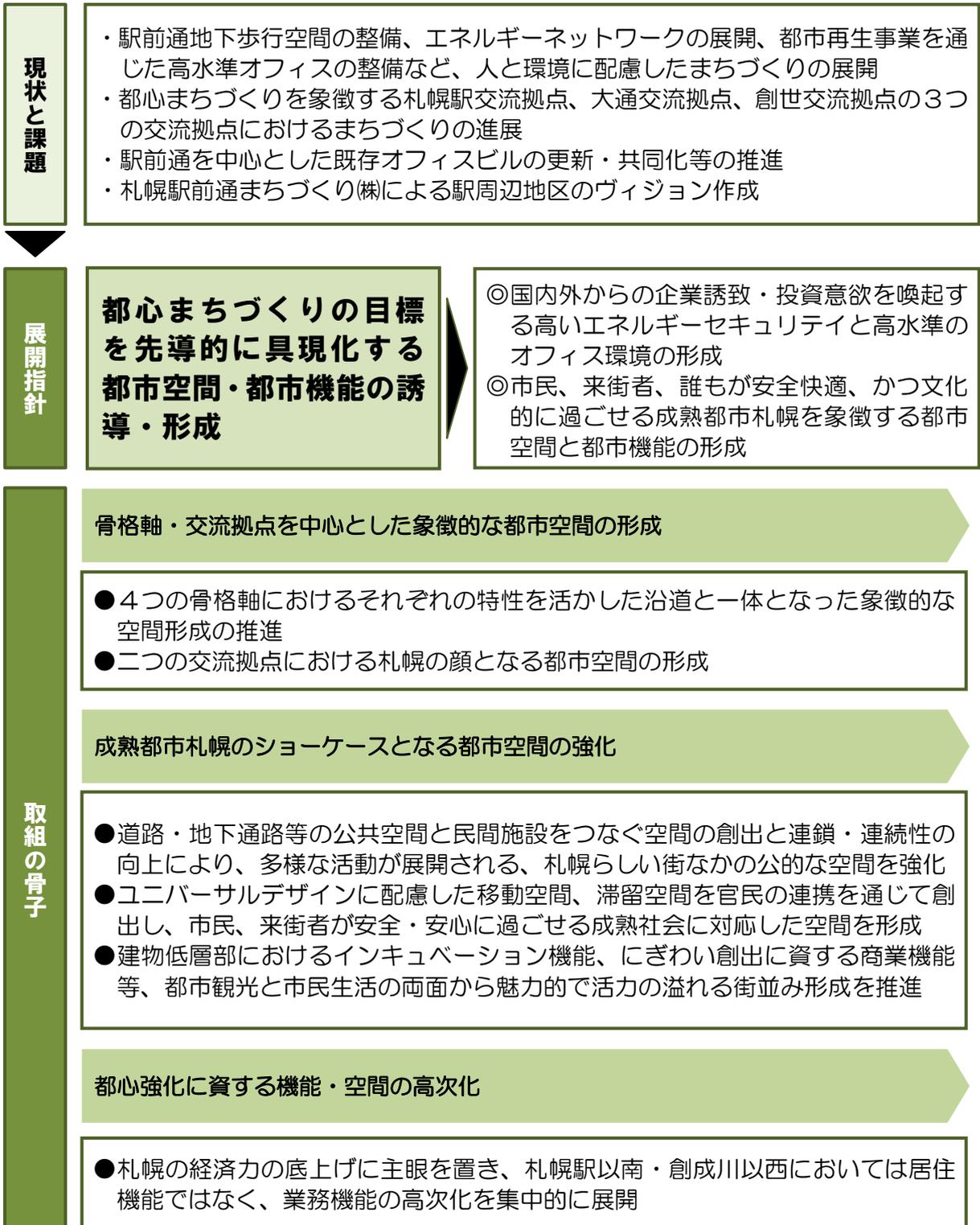
- 大通公園・創成川を基軸とした空間・にぎわいの連鎖・連携
- 創成川東西の市街地の連携強化と創成東へのゲートとなる空間の整備
- 大通公園南北街区の連続性の強化

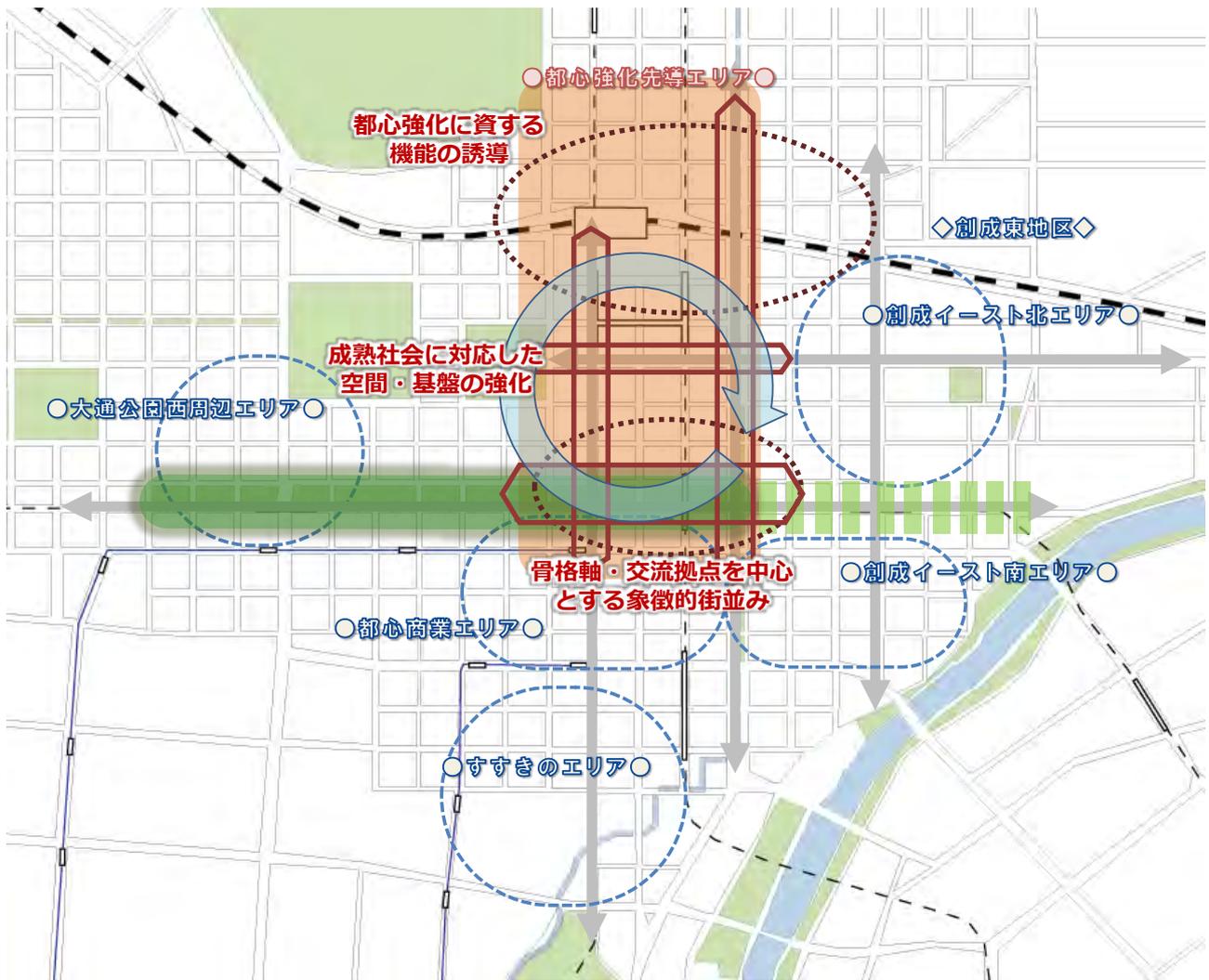


4 エリア特性に応じたまちづくりを進めるための取組

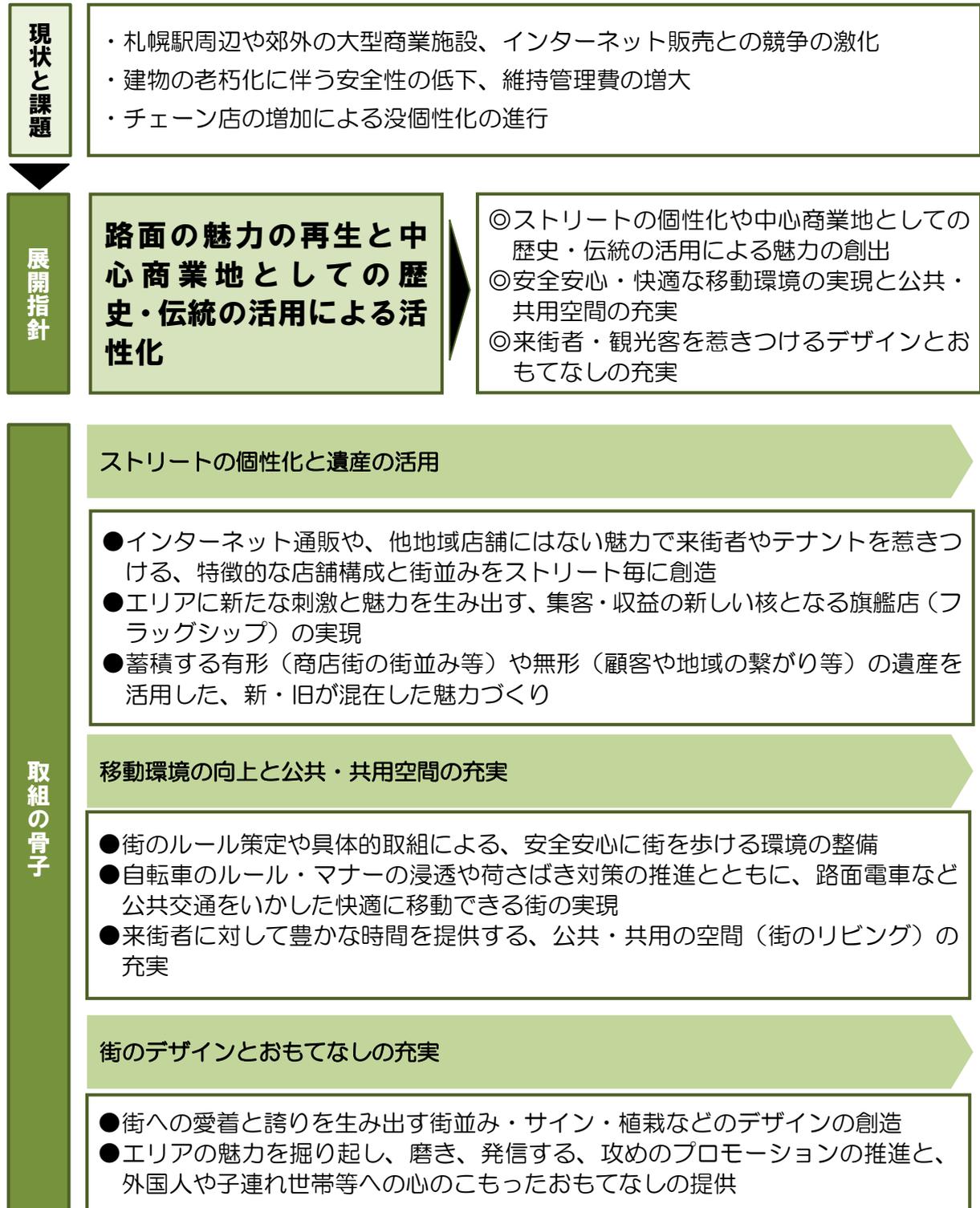
～都心の多様性を育てるターゲットエリアのまちづくりの促進～

4.1 都心強化先導エリア





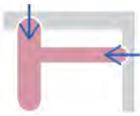
4.2 都心商業エリア



●空間づくりの力点

力点1

エリアの一等地で世界を魅了し、街の将来をかける

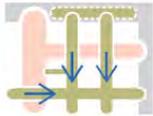


エリアの顔
『Tゾーン』



力点2

『Tゾーン』から人の流れを引き込み、エリアの回遊性を高める



個性で挑む
『ストリート』

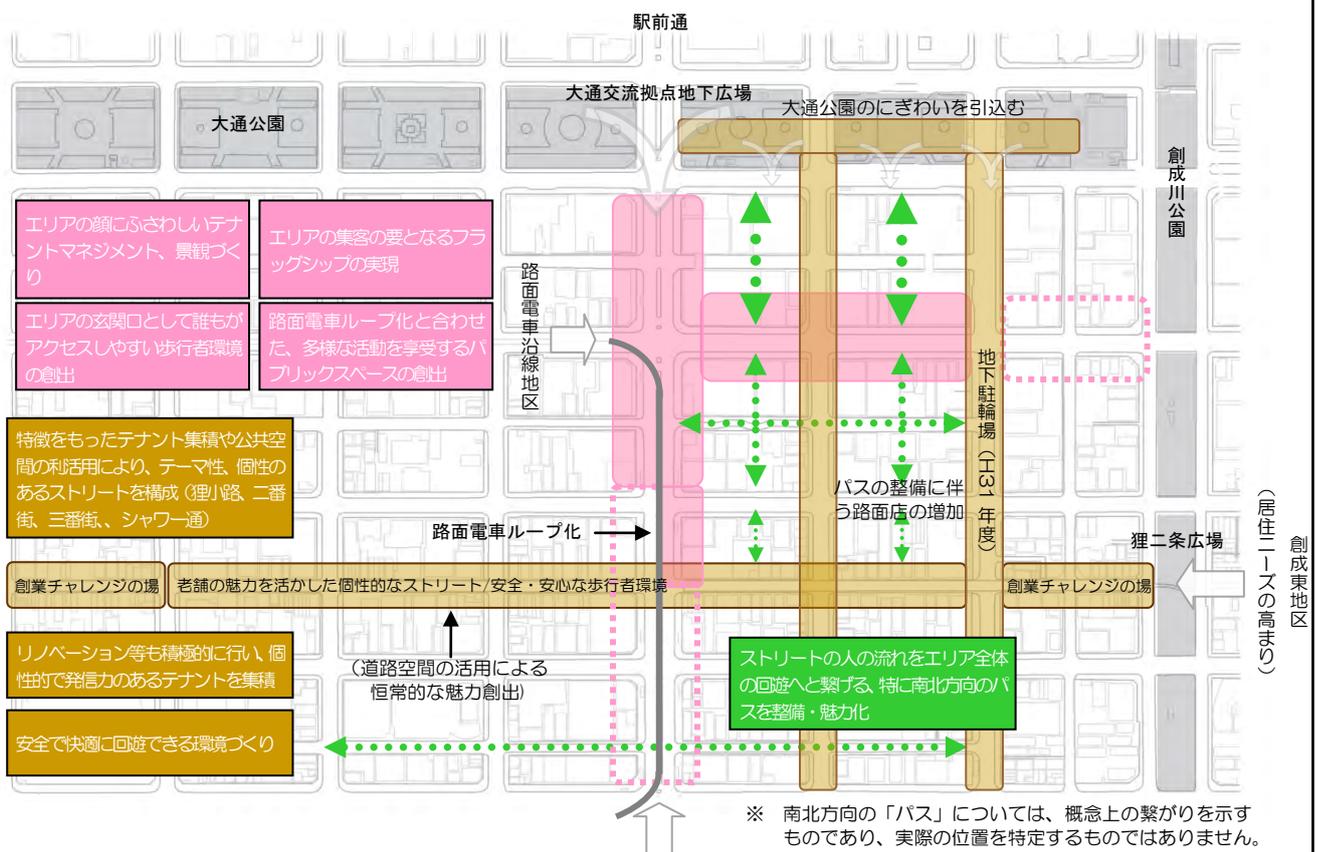
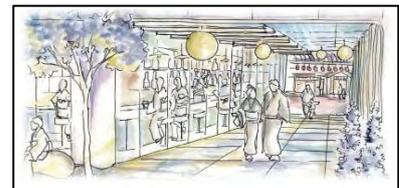


力点3

界わい性のある歩行者空間で、人々を街区の奥まで誘い込む



街の奥へと誘う
『パス』



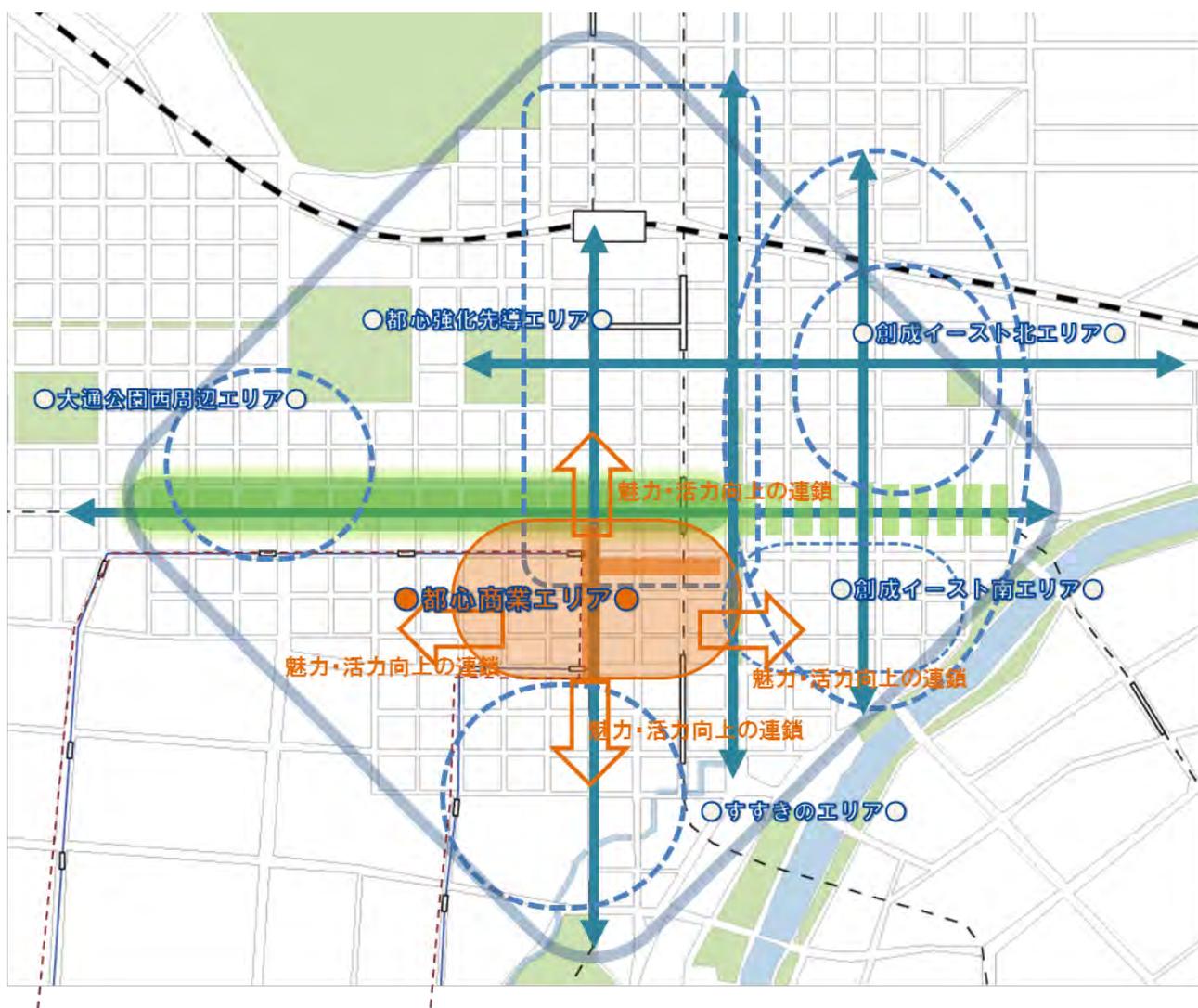


図 都心商業エリアにおける取組の他エリアへの波及

4.3 すすきのエリア

現状と課題

- ・長引く景気の低迷により飲食店が減少
- ・第9次都市再生プロジェクトのモデル地区への指定
- ・「(通称) ススキノ条例」の施行などを受けた、地元団体、関係行政機関などで構成される「クリーン薄野活性化連絡協議会(H17)」の設置
- ・鴨々川ノスタルジア等、地区の関係主体から生まれたまちづくり活動の展開
- ・開拓期からの都市的資産であり、市民の憩い・交流の場である中島公園に隣接

※第9次都市再生プロジェクト；資料2参照

※「(通称) ススキノ条例」；札幌市公衆に著しく迷惑をかける風俗営業等に係る勧誘行為等の防止に関する条例

展開指針

観光交流・市民生活を充実させる歓楽街づくりと中島公園をはじめとする周辺資源との連携

- ◎安全安心な歓楽街づくりの促進
- ◎周辺資源とのつながりを感じる回遊ネットワークの充実
- ◎中島公園をはじめとした近隣観光施設との連携強化

取組の骨子

すすきのエリアの方向性検討

- 既存組織を中心としたエリア全体の方向性の検討
- まちづくり推進のための組織づくりとアクションプランの検討

安心感と魅力の向上

- 公共空間の安全対策や環境浄化活動による安全で安心なまちづくりの推進
- 夜間観光の魅力を高めるための魅力的な空間整備についての検討

資源活用と周辺との連携・連鎖

- 鴨々川や寺院をはじめとする歴史的建物等、エリア内の個性的な空間形成を支える資源のまちづくりへの活用
- 近隣の中島公園をはじめとする、観光交流や市民交流を支える資源との連続性の向上
- Kitara 等、近隣の文化資源とのつながりを高め、施設利用者の地区への流入を促進
- 札幌駅や大通公園西周辺エリアと連携した、札幌ならではのアフターMICE 環境の強化

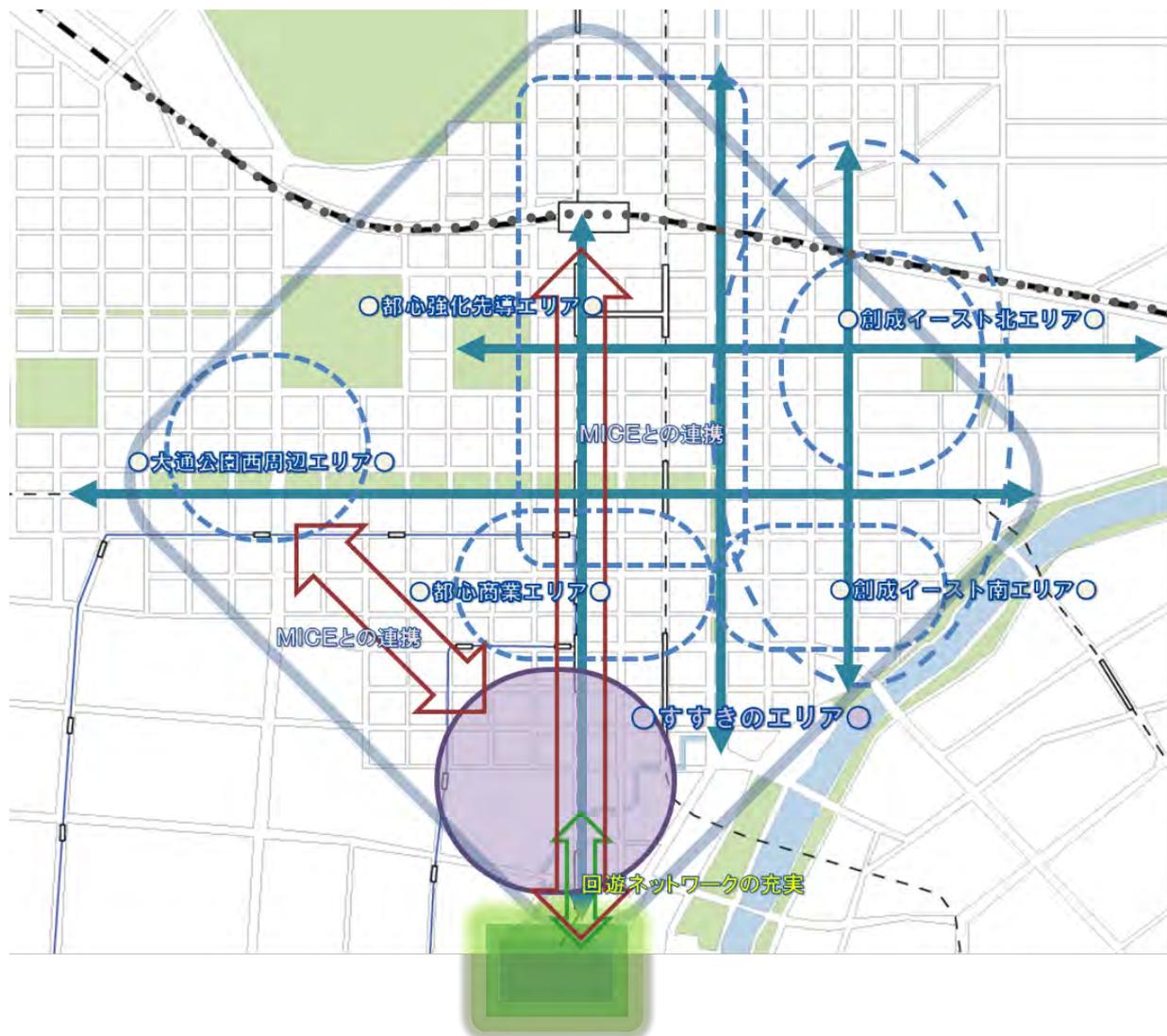
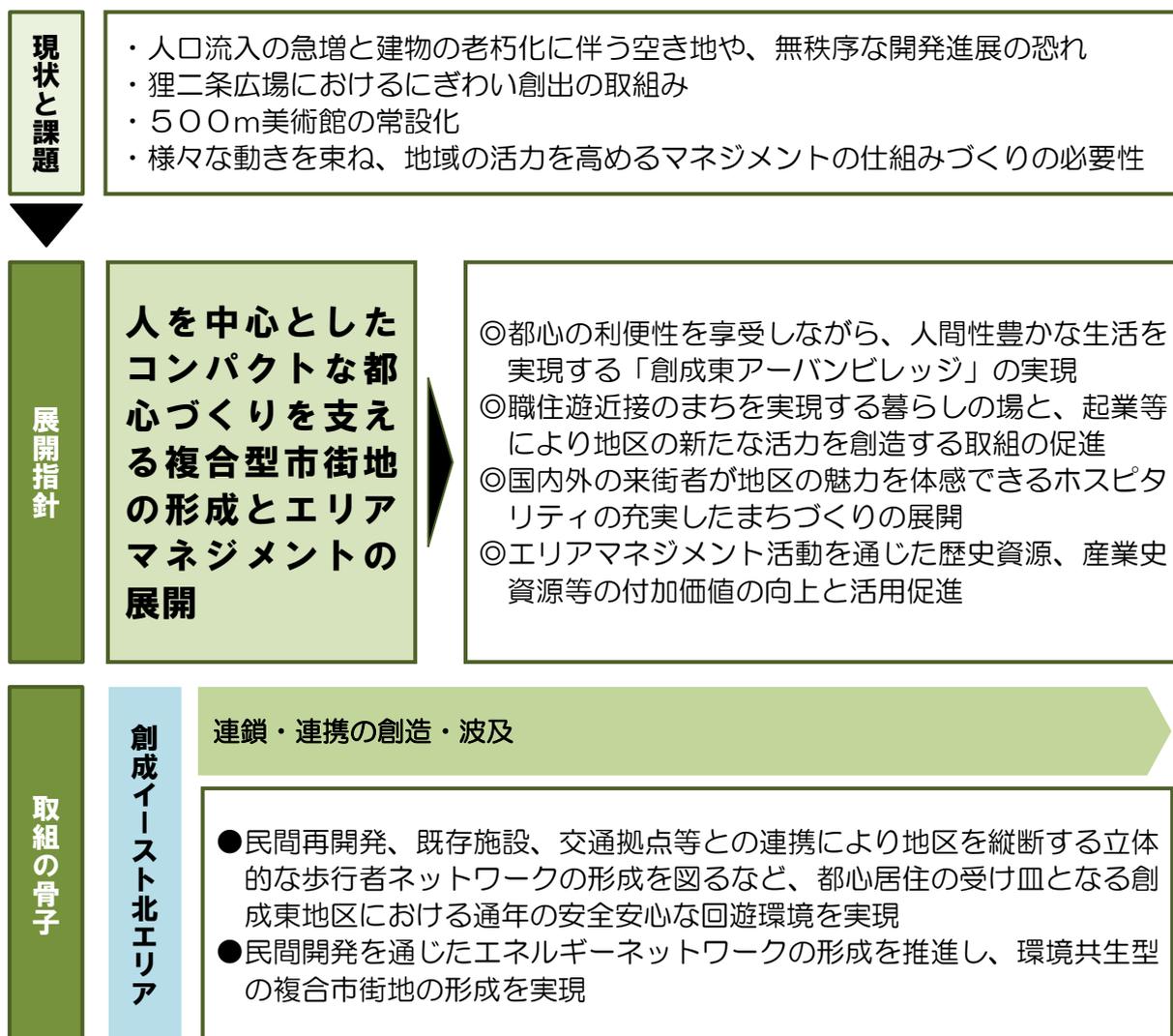


図 すすきのエリアにおける取組と他エリアとの連携

4.4 創成東地区（創成イースト北エリア、創成イースト南エリア）



資源活用を視点としたマネジメントの推進

- 二条市場、酒蔵工場等、創成東の重要な歴史資源との連携、地域住民との連携を図り、ものづくりの文化・暮らしの豊かさを実感できる活動を展開するなど、地区にある資源を最大限活用したエリアマネジメント活動を推進
- 既存の観光資源を中心に、国内外からの来街者を受け入れるホスピタリティのあるまちづくりの推進

ストック活用の促進

- 500m美術館などの公共施設や神社などをまちづくりにおける活動空間・交流の場として活用し、地区の新たなにぎわい・活力を創造
- リノベーション等による老朽ストックの暫定活用等、地区の既存の街並みを活かしつつ、創成東地区ならではの新たなチャレンジ・場づくりを推進

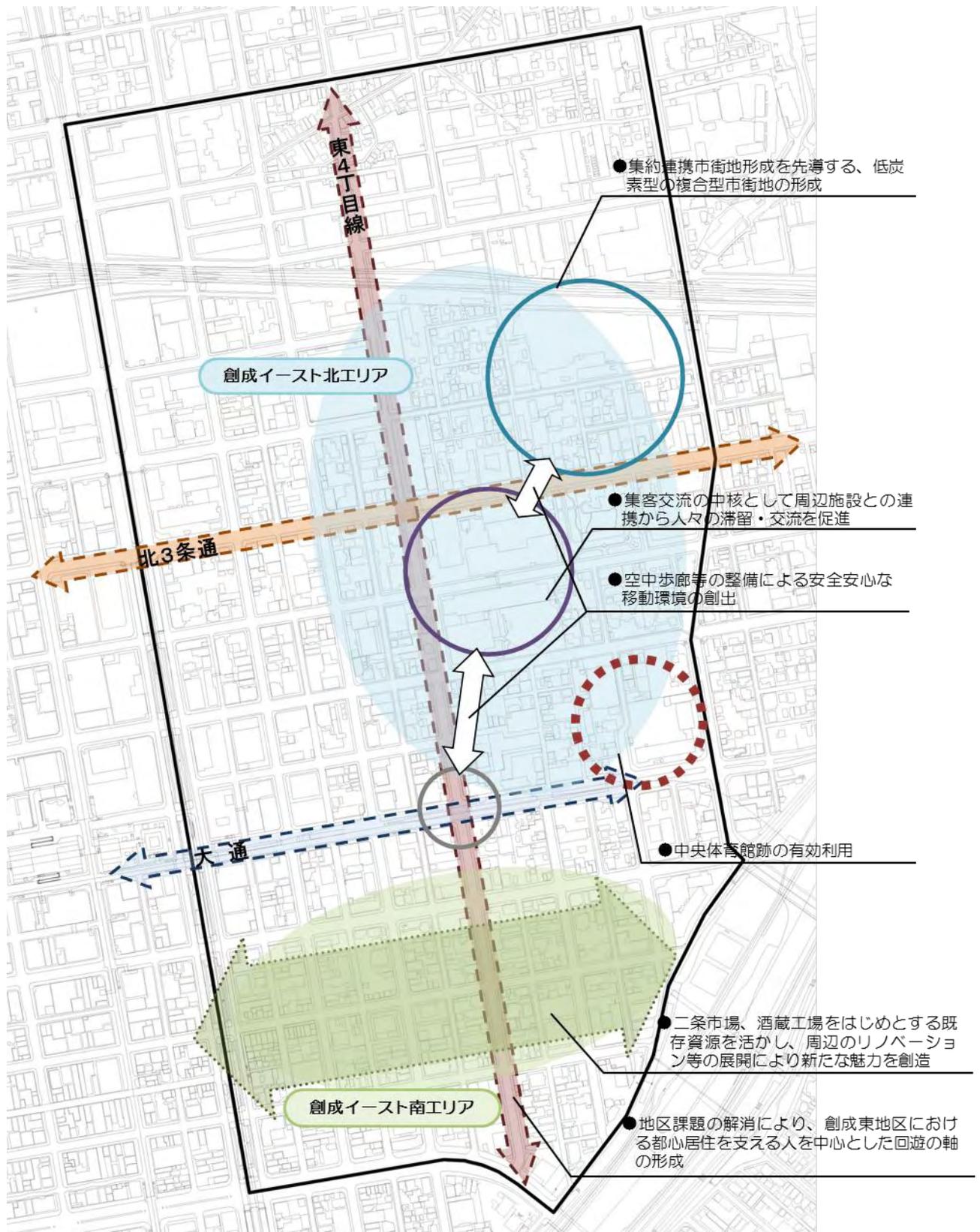
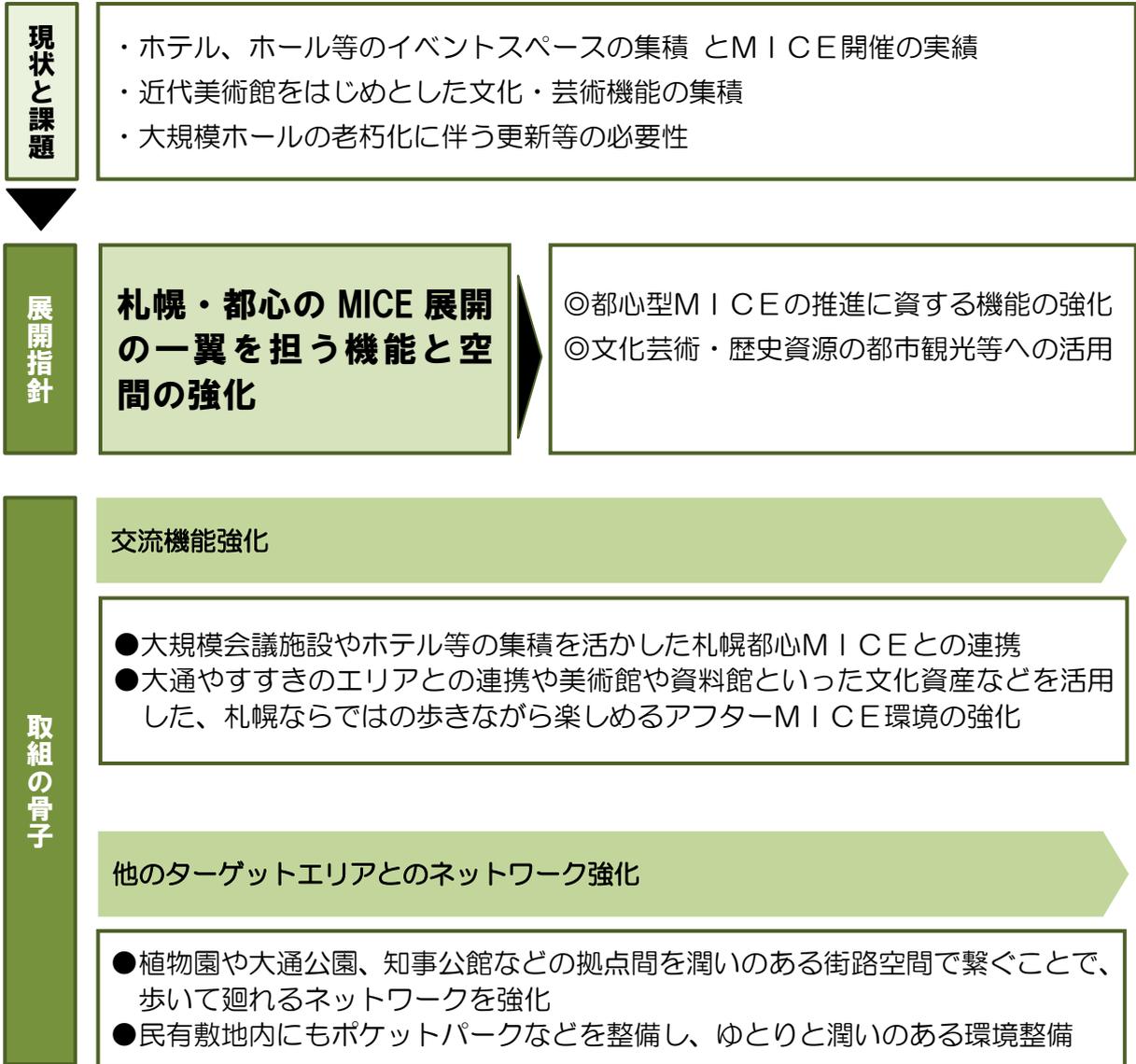


図 創成イースト北、南エリアにおける取組

4.5 大通公園西周辺エリア



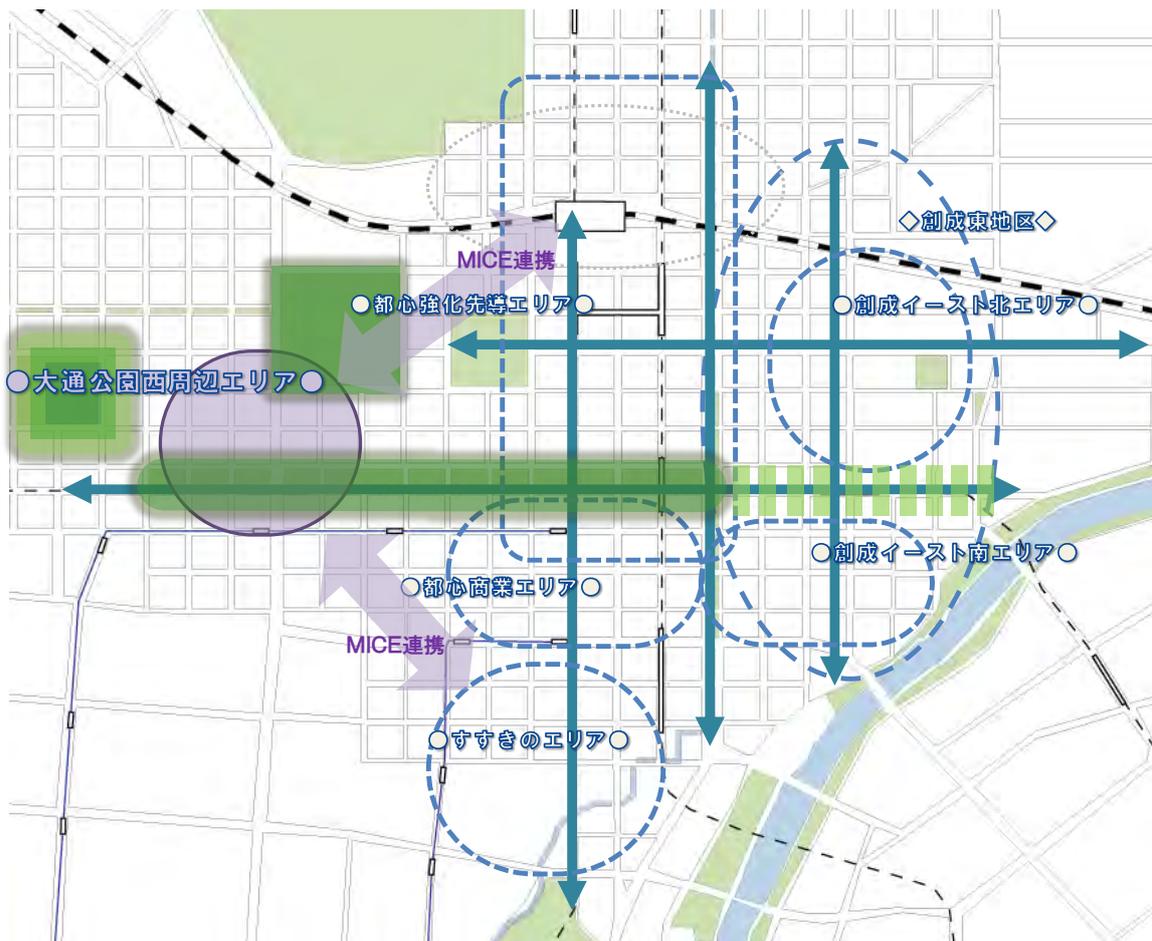


図 大通公園西周辺エリアと他エリアとの連携

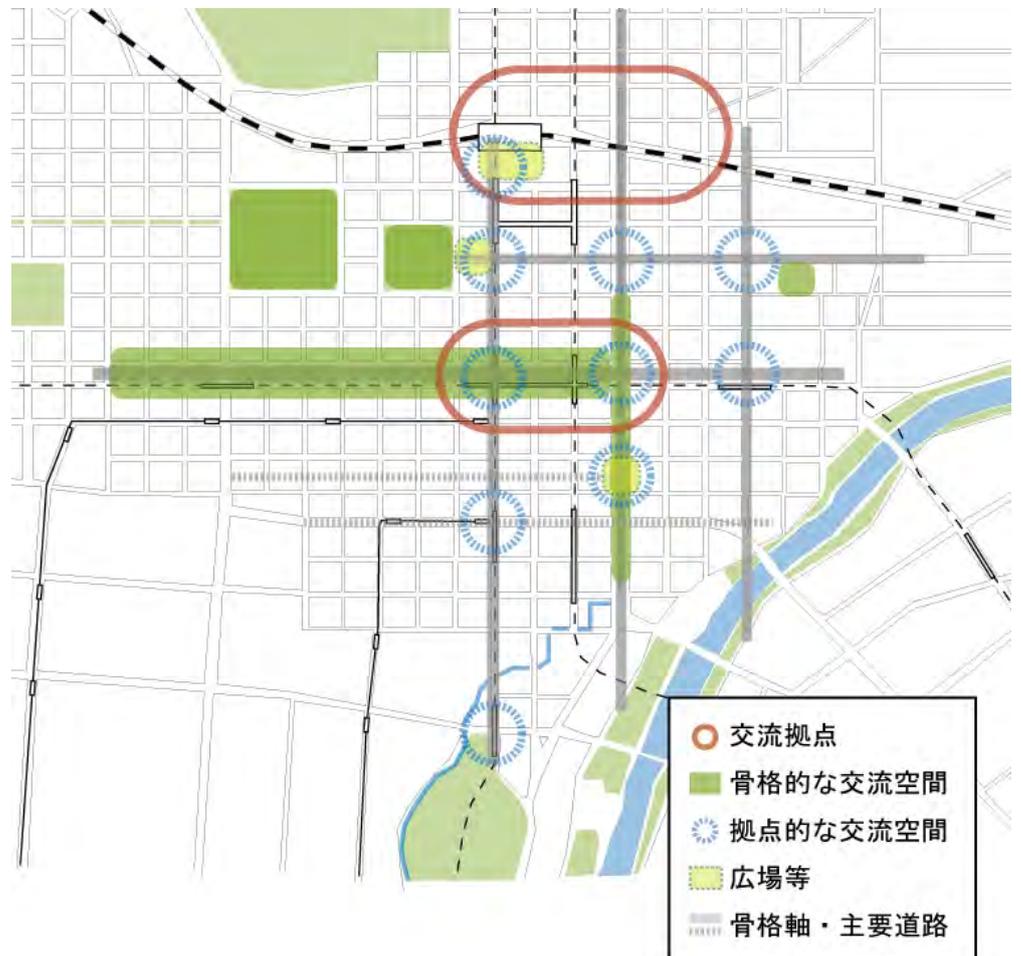
5 都心全域を視野に入れた空間形成指針

骨格軸や展開軸、交流拠点、ターゲットエリアからなる都心の市街地形成に係る骨格構造に加え、都心全域においてきめ細やかな空間形成を図ることにより、奥行きのある都心の空間が生まれます。さらに、こうした空間の連鎖によって市民や来街者等、多様な人々の活動の選択性と魅力が生まれ、都心の価値を高める上では重要となります。その具体的な展開に際しては、以下の3つの観点から空間形成の方向性を定めることとします。

視点① 交流空間の創出

主に、回遊の基軸となる骨格軸の結節点は、市民、来街者が都心における多様なアクティビティに触れ、都心のにぎわい・活力を体感できる豊かな空間を備えるべき場として重視し、これらを「拠点的な交流空間」として位置付けます。

また、大通公園を始めとする象徴的なみどりの空間や、交流拠点における象徴性のあるパブリックスペースは、「骨格的な交流空間」としての役割を併せ持ち、骨格軸や拠点的な交流空間を介して連鎖・ネットワークし、新たな回遊、交流を創出・強化することを目指します。

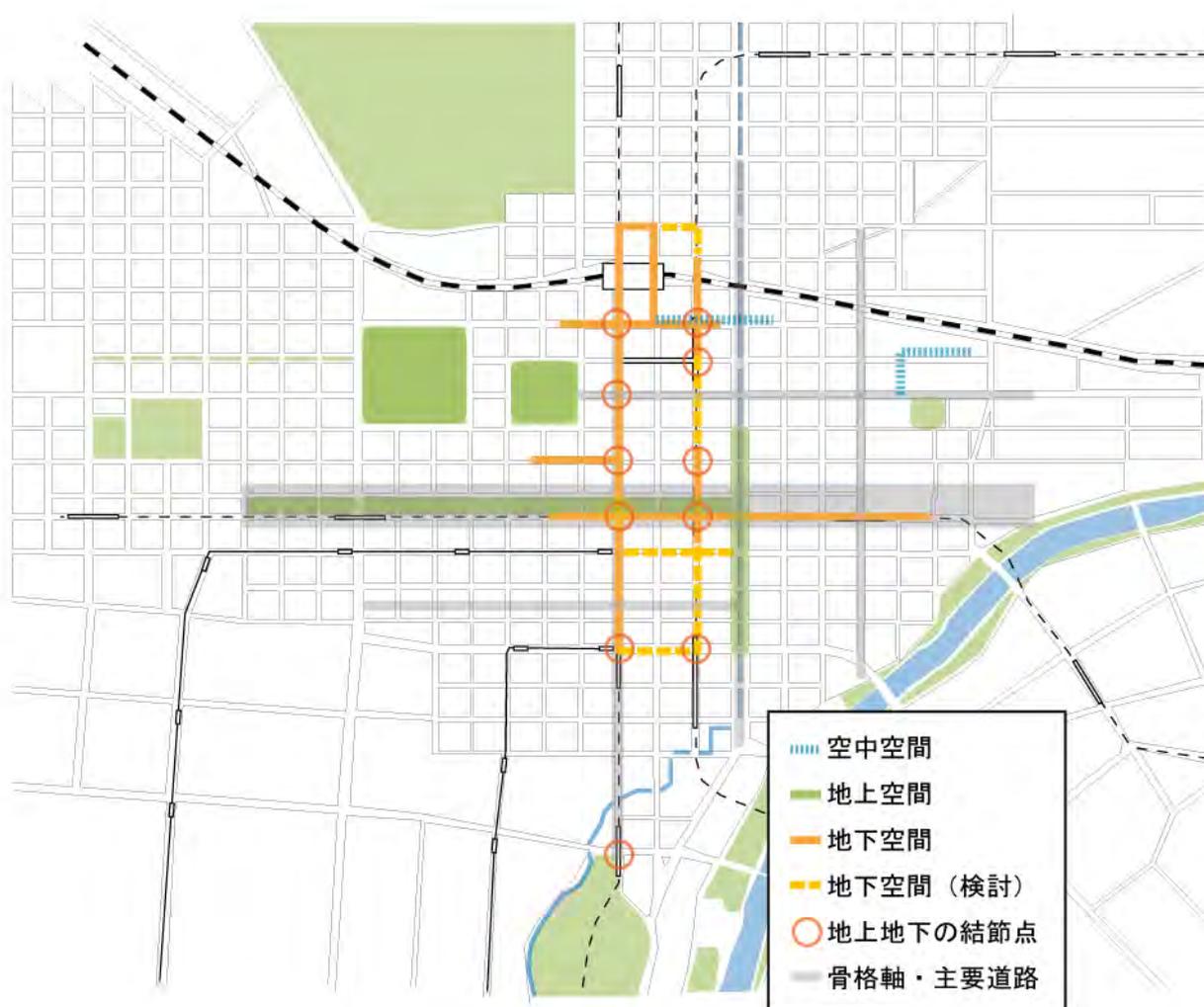


視点②

地上・地下の重層的ネットワークの形成

積雪地札幌の四季を通じた市民や来街者の安全・快適な回遊を支える都心の重要な資産である地下空間ネットワークを活かし、沿道の民間ビルの建替え更新等を通じた接続により、地上部の回遊空間の充実を図りながら空間の選択性を高めます。これにより、都心における公共施設、民間施設の連鎖による重層的かつ多様な地上地下のネットワークを強化・拡充します。

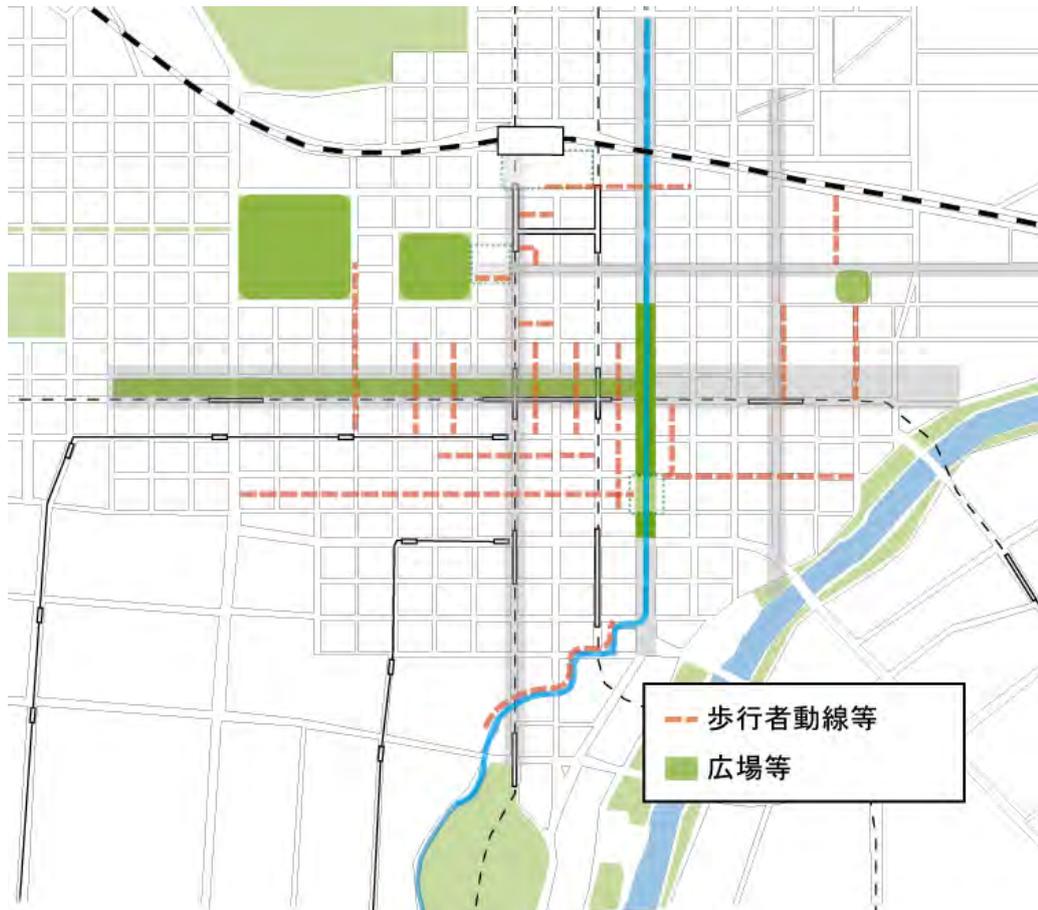
さらに前述の交流空間の形成と併せて回遊の結節点における四季を問わない滞留・交流の場づくりを図りながら、重層的ネットワークとの連携性を高め、質の高い、札幌らしい公共空間の創出を図ります。



視点③ 界わい性と奥行きのある公共的空間の連鎖

中通や屋内外の建物貫通路、建物間通路など多様な歩行者動線を配置・活用して、パブリックスペースのきめ細かなネットワークにより、奥行きのある都市空間の形成を促進します。その際、公共的機能を持つ施設や広場的空間への行きやすさの確保を重視します。

こうした取組により、表通りとしての骨格軸における象徴的な回遊動線とは異なる、界わい性を備え、まち歩きを通じた新たな都心の魅力を発見できる空間形成を図ります。



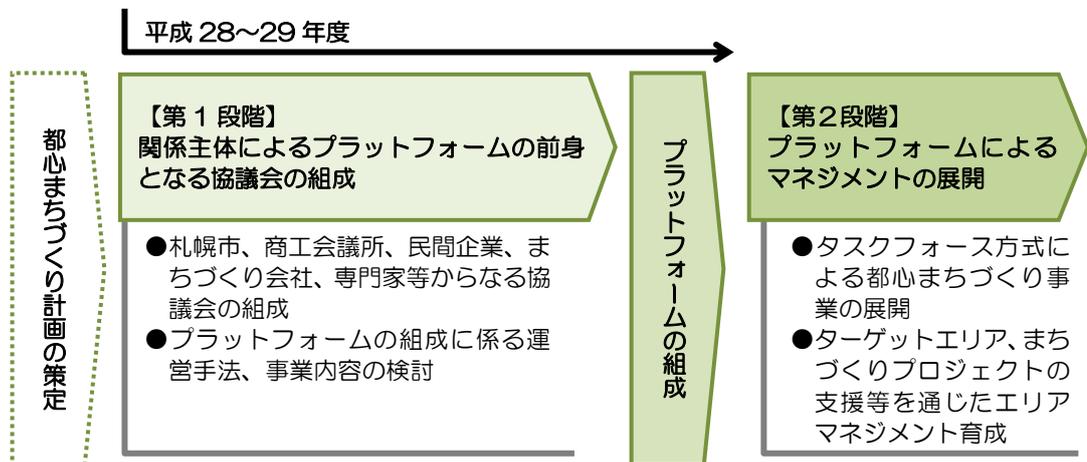
1 まちづくりの実効性を高める上での取組

(1) 持続的な都心まちづくりの仕組みの早期構築

都心まちづくりの長期的な取組の展開を支える上では、継続的かつ専門的にまちづくりに携わる仕組みが必要となります。かつ、この仕組みにおいては、都心まちづくりの理念を共有し、それぞれの専門性を発揮し得る多様な主体による体制を構築することが重要となり、これを都心まちづくりの「プラットフォーム」として位置づけました。

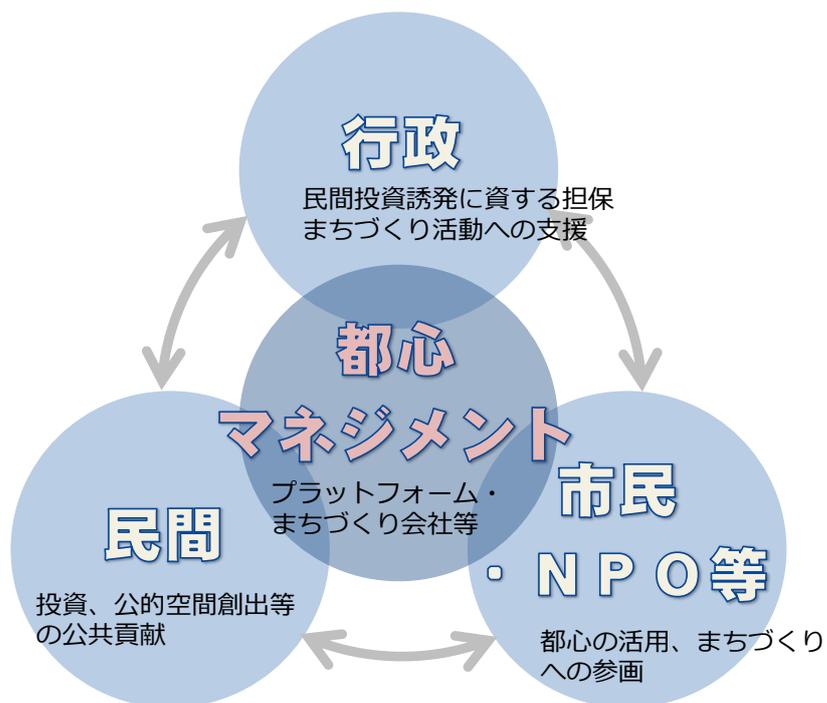
本計画に定める戦略を着実に展開し、札幌のまちづくりを先導する象徴する取組を推進する上では、このプラットフォームの早期組成と専門性を活かしたタスクフォースによる多様な取組の実行が必要とされます。

そのため、本計画の策定を期に、都心まちづくりにかかる多様な主体からなる協議会・検討会等の議論の場を設置し、プラットフォームの実現に向けた検討、様々なまちづくり展開に向けた事業立案など、戦略的な取組を推進します。



(2) まちづくりの展開を支える各主体の役割の規定

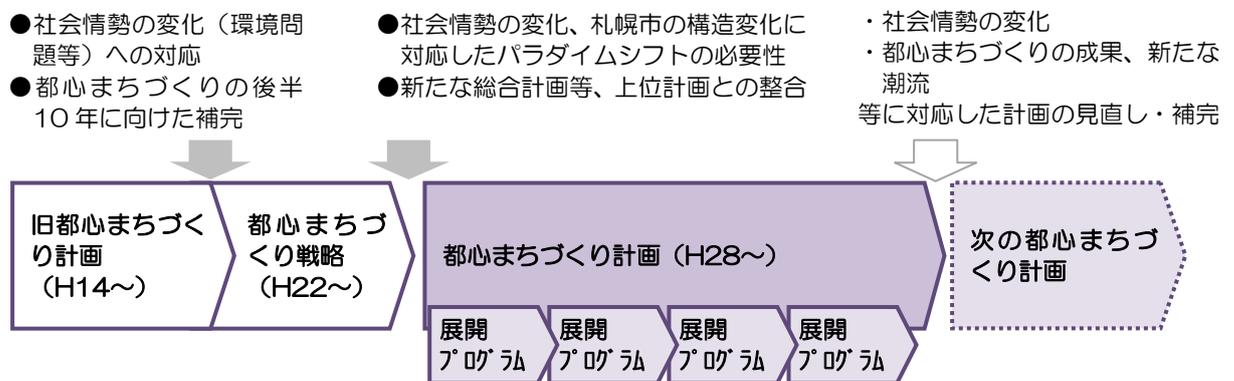
本計画において定める都心まちづくりの取組を着実に推進する上では、中核的なプラットフォームによる戦略的展開と併せて、個別の取組においても、関係主体が将来像を共有した上で、それぞれの役割・能力に応じて多様な連携を展開しつつ、協働によるまちづくりを推進することが求められます。



(3) 情勢に適應した計画の見直し・更新

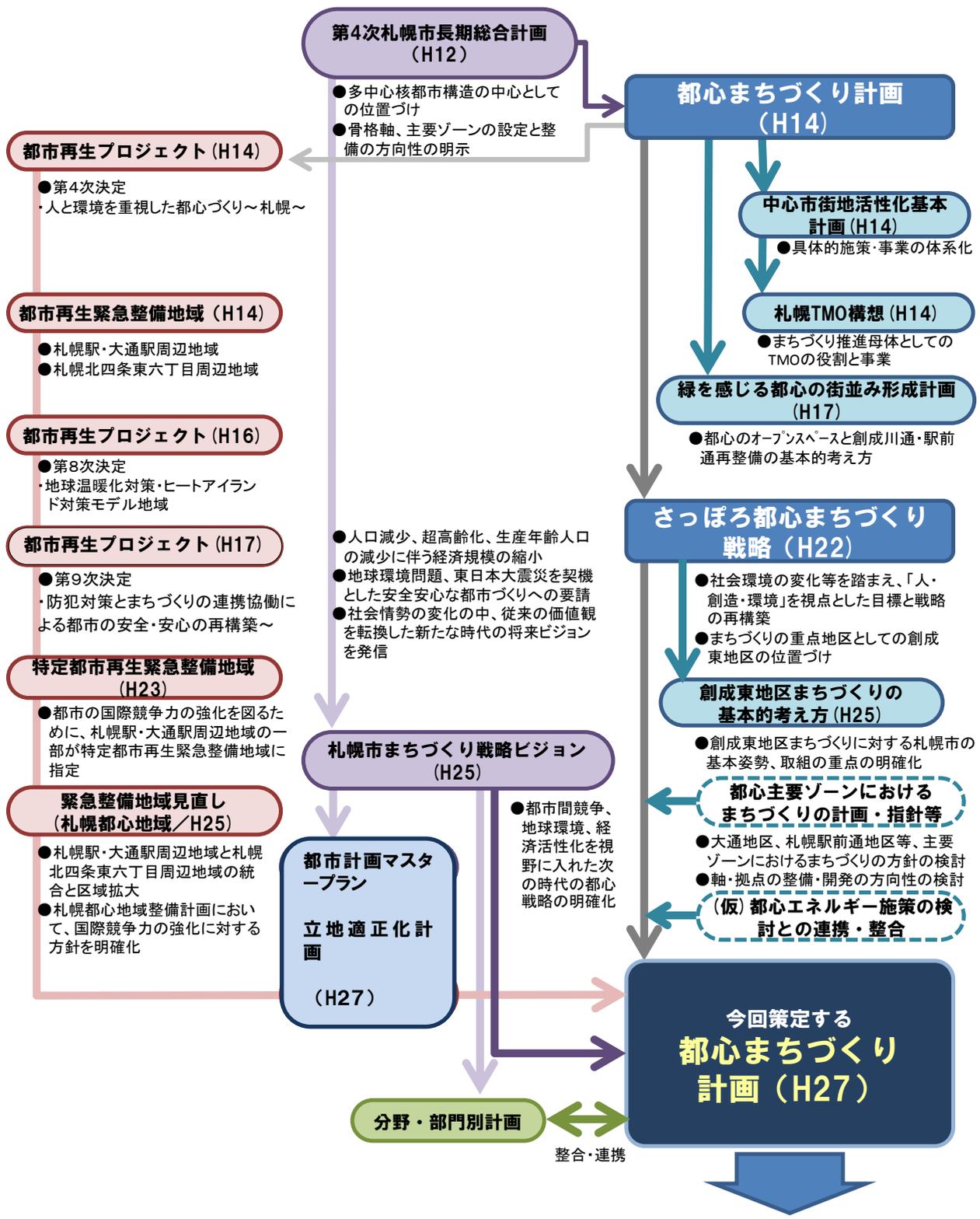
札幌市並びに都心を取り巻く社会経済情勢が刻々と変化中、札幌を先導するための都心づくりのマスタープランとなる本計画は、前都心まちづくり計画をはじめとする都心まちづくりの基本的な理念を継承しつつ、情勢に応じて新たな視点を加えつつ進化させることが必要となります。さらに、まちづくりを展開する中で、短期的な取組である展開プログラム（5年程度）を発展的に展開し、目標実現に向けた着実な取組を進めることが重要です。

こうした時勢に適應した長期的なマスタープランの見直しと、アクションプランの積み重ねの二つのサイクルから適切なまちの成長管理を行うことが必要とされます。



【資料1】 都心まちづくりの経緯

札幌都心のまちづくりは、札幌市第4次長期総合計画（H12）において定められた多中心核構造の中核としての都心の整備のあり方を具現化するために、旧都心まちづくり計画（H14）の策定を機に、都市再生と一体的に今日まで展開されてきました。



【資料2】 策定の仕組み

本計画の策定は、平成26年、27年度の二か年で行い、この過程において、「都心まちづくり計画策定協議会」を中心に計画作成に係る議論・検討を進めました。

さらに「都心交通」「エリアマネジメント」「観光・MICE」という視点から都心まちづくりを専門的に検討するための部会を設置し、重点的な議論を進めてきました。

また、市民アンケートをはじめ、多方面からの意見集約を図り、これからの都心まちづくりの方向性と取組の考え方に対する合意形成を進めました。

